

英米ジャーナル *The Eibei Journal*



明海大学 外国語学部 英米語学科
2022年 学科報告書

目 次

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉

学びの原点回帰へ	1
英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介	
小林裕子ゼミ	4
梅谷博之ゼミ	8
川成美香ゼミ	12
河原伸一ゼミ	16
小谷哲男ゼミ	20
嶋田珠巳ゼミ	24
辰己雄太ゼミ	28
ケイコ・ナカムラゼミ	30
林智昭ゼミ	34
福井英次郎ゼミ	38
松井順子ゼミ	42
妻鹿裕子ゼミ	46
横溝祐介ゼミ	48
金子義隆ゼミ	52
高野敬三ゼミ	56
百瀬美帆ゼミ	60
卒業研究題目一覧	64
2022 年度英米語学科 卒業研究発表会	71
海外英語研修	
University of Hawaii (NICE Program)	72
アルバータ大学 (カナダ)	86
GSM フィールドワーク参加報告	
GSM インターンシップ	88
GSM ボランティア	91
Multilingual and Communication Center (MLACC) 活動報告	94
卒業生からの手紙	102
編集後記	105

英米語学科教員からみなさんに贈る言葉

学びの原点回帰へ

英米語学科主任 小林 裕子

今年もこうして英米語学科の皆さんが心を込めて書いた、ゼミ紹介や様々な活動報告、そして卒業生の皆様からの近況報告などを読むとき、学事暦が無事に一巡したことをありがたく思います。

2022年度は新たな挑戦の年であったと言えるでしょう。2019年から始まった新型コロナウイルスの蔓延を受け、大学での学びに遠隔授業が組み込まれるようになりましたが、言語の修得を重要な目標の一つとして標榜する英米語学科にあっては遠隔授業だけでは達成することができない重要な要素が抜け落ちる可能性が危惧されました。

2022年度は対面授業が完全に戻ってきました。特にコミュニケーションの手段としての英語を修得する時には声のトーンや強弱、間の取り方、そして何より相互に表情を確認して進める「言葉にできない言葉の相互交換」の大切さを再認識する一年となりました。そのような意味で2022年度は言語学修の基本に立ち返る新たな挑戦の年でした。

対面授業の全面復活を受けて、1年生から4年生まで設置されているゼミ科目と、2年生の「課題探求セミナー」ではアクティブラーニングを活かした大学生らしい授業風景が戻ってきました。ゼミ科目にあっては仲間との情報交換や何気ない会話が大学生活の根幹を支えているのだと皆さんも実感したと思います。専攻別学修の出発点となる「課題探求セミナー」や、大学での学びの中核をなす「専門領域研究講座」「卒業研究」では仲間と切磋琢磨しながら、皆さんが人格の幅を広げていく様子を見ること



が私達教員の喜びです。

2022年度は海外研修も復活しました。数年間にわたり奨学海外研修が実施できない状況が続いていましたが、この夏休みには11名の2年生から4年生の学生がハワイ大学での研修に参加することができました。ひたすら勉学に励み模範的な学生生活を送ってきた学生さんたちがハワイ大学での語学研修で他大学の学生さんたちと学ぶことができたのは大変ありがたいことでした。

複数年に渡って限定的な実施にとどまっていたGSMフィールドワークやインターンシップにも活気が戻ってきました。GSMフィールドワークは、国内ボランティアとして地域住民の皆様からの暖かいご支援を受けながら「明海の丘夏まつり」で活動をさせていただきました。また、JA市川のご協力を頂き、初めての試みである「援農ボランティア」を実施し、これからのボランティア活動に新しい方向性を見出すことができました。長時間のボランティア体験や農家の皆さんとの活動に学生さんたちは弱音を吐くどころか、報告会では明るい笑顔を見せてくれましたし、はつらつとしたその報告内容は、それぞれの大きな成長を感じさせてくれるものばかりで、教員たちにも深い感動を与えてくれました。多くの学生さんが地域の子供たちと、地域の社会人の皆さんと、そして千葉県の県産品を育てる梨農家の皆さんとの交流で大きな成長を果たしました。

今、私達は解決が難しい問題が世界中に山積していることを目の当たりにしています。超一流と言われる金融理論も国際政治理論も予測不可能な現実には翻弄されています。手のひらの上の画面で揺れ動く画像やそこに踊る文字は皆さんの未来の可能性を広げてくれるものなのではないでしょうか。大学で学ぶ者として冷静で客観的な価値を自ら見出してほしいと、皆さんには大きな期待をかけています。

この英米ジャーナルには多くの在學生と卒業生が、様々な想いを寄せてくれました。ハワイ大学に出かけた学生さんたちはどのような事を考えたのでしょうか、ボランティアやインターンシップを体験した学生さんたちはどのような糧を得たと述べているのでしょうか。卒業生は英米語学科での学びをどのように広げ、社会で活躍しているのでしょうか。

皆さんには、大学で様々な視点から学んだことを有機的につなげて理性的な判断をしながら自らの生き方を開拓してほしいと思います。不確定要素が満ちるこのような状況だからこそ省察が肝要です。正しい行動力を揺り動かすために、皆さんが知的探求心を深化させてくれることを願っています。



英米語学科ゼミ（専門領域研究講座・卒業研究）紹介

小林裕子ゼミ

専門領域研究講座

3年 福田 レイ

あなたはゼミと言う場所にどのようなイメージがありますか？大学に入学してから日々単位を取得する中でそれらの知識をアウトプットできる場所がありますか？ただ生活をすすめる中ではそれらの知識を使う場面はとても少ないと思います。ですがゼミと言う場所は授業で学んだ知識を使い、そして深め、ゼミのメンバーそして先生と共有できる唯一の場所だと私は思います。そして我が小林ゼミではどこのゼミよりも個々の話題や授業などで得た知識をきっかけにゼミで取り扱い、さらにそこから先生の幅広い知識と共に日々様々な問題について知識を深めています。実際他のゼミでやっている事は詳しくないのですが、小林ゼミでは小林先生含めメンバーと和気藹々と日々活動しています。そして小林ゼミはとてもアットホームな場所であり、大学生活の中では一番リラックスしながら授業を受けることができる場でもあります。なかなか大学生活に馴染めない人でもゼミと言う場所は自分の個性を活かし、そして更に知識を深める事ができるそれが小林ゼミです！

私たちは日々英字新聞を読みそこから世界で起きている問題について学び、何故それが起きているのか今後それらの問題をきっかけに何が起きるのか深い所まで考えていく、そのような活動を日々行っています。英語を勉強しながら世界の問題についても学べる一石二鳥の授業であると思います。どこの授業を探してもこの様な授業は他にないと思います！英字新聞と聞くと非常に難しいイメージがあると思われがちですが、日々ゼミで読んでいく中でびっくりするぐらい読める様になります。私が最も印象に残っているのはコロナウィルスに関しての記事です。コロナウィルスにかかって重症化した人の脳が最高10歳も老化してしまい高度な思考能力が目に見えて減退する可能性があるといった恐るべき内容です。ゼミではこういった深刻な内容も取り扱うこともあります。私は普段からニュースなどを確認する習慣などは多くなかったのですが、小林ゼミを通して日々起きている事について知っておく事の重要性について改めて実感できました。またニュースや新聞を見る様になってから日本と海外では全く取り扱っている内容が異なる事もわかりました。私がおもひ小林ゼミに入っていないなければもちろんこの様な違いを感じることもできませんでした。もちろんコロナに対しての情報も同様です。ゼミは私の中ではそう言ったきっかけを作ってくれる場であると思います。日本のニュースや新聞ではやれ芸能人が結婚した、どここの野球チームが優勝したなどのどれもこれもくだらない内容ばかりでしたが、BBC

やニューヨークタイムズそしてジャパントゥタイムズなどの英字新聞では世界で現在起こっている出来事をリアルに体感できるものなのだと思います。内容は興味深いものからリアルで深刻な問題まで様々ですが、日本で私がいままで見てきた新聞のどれよりも遥かに自分が今後生きていくなかでためになる内容がとても多かったです。

これらの学んだことは絶対に今後、就職や課題などを行う際に必ず生かす事ができ、そして自分の知識としても必ず実を結びます。ただただ読むだけでは読んで終わりですが、ゼミのメンバーそして先生を通して意見を出し合い学び合うからこそ、それらを自信に繋げて自分の持つ知識として様々な事に活かす事ができる、これが本当のインプットそしてアウトプットなのだと思います。もし少しでもこの紹介文を読み興味を持ってもらえたのなら是非小林ゼミに入って個性的なメンバーと共に知識を深めていって欲しいと思います。また小林ゼミも同様ですがこの文章を読んで一人でも多くの学生の学ぶ、考える、そして感じる知識のきっかけになってくれたら幸いです。



卒業研究

4年 椎名 怜央

皆さんは、偶然この地に生まれ、大切な人によって必然的に育てられてきました。そうして我々が暮らしとして認識している人生の旅路には喜怒哀楽が織り交ざり合い日常を形成していきます。次第にとある文化へ固定され、そこで普遍的な生活をしていると身の回りを囲んでいるある種の空間、物事の変化に気づきにくくなっていることすら我々は把握できていないのかもしれませんが。そんな平凡な暮らしの中、日本のみならず世界各国では飢餓や貧困、大気汚染、戦争、人種差別等の問題により酷く、見るに堪えない環境下で生活することを余儀なくされている人々が多く存在しています。

小林ゼミでは、一種のニュース番組かのように世界中で起こっているあらゆる事象に対して着眼点を置き、複数人で話し合っていきます。抽出源は先生が興味関心を抱いた英字新聞等からで、専門的で固執したものというよりは社会人として知っておくべき内容や知っておくと就活の面接で役立つ内容などを取り上げてくださいます。関心すらなかったことや自分にとって難しいと感じる記事でも小林先生は楽しくかつ丁寧に読み進めてくださいます。

小林先生は学生の自主性を重んじ、各々の想像力や脳内創造性を育むべく、一風変わった授業を構築・展開しています。従来の教師では、既存の解というものを根本に置き、そこに達するまでのルートを順序良く論理的に説明していきます。しかし、先生の場合はゼミ生の考えを聞いたうえで「その考え面白いね」、「他の人はどう思う？」と一人ひとりに寄り添いながら意見を尊重し、明確な解は決めずに答えの幅を広げてくださいます。そのため、ゼミでの話し合いでは全員の個性が強く反映しており、個々人が持ち合わせていない知識や思想をより多く吸収することができます。実は、今後の社会で生きていくにはこのクリエイティビティの精神を養い、十分に能力を発揮していくことが必須になっているので、卒業後には大いにその価値観を体感できると思います。

そして、皆さんが知りたがっているところであろう卒業研究を作成し始めるのが4年生からです。内容はゼミで頻繁に取り扱うSDGsに関する題材や幼いころから観察してきた研究対象から得たデータを統計的に調査したもの、日常の環境に影響を受けて興味を抱いたもの、ゼミで扱った話題から刺激を受けたものなど基本的には自由です。たとえ研究途中で自分の選択した題材に不安を感じ、進行方向に迷いが生じた際には先生が寄り添い、共に解決して下さいます。むしろ、悩む前に各授業の冒頭でアドバイスを頂けるので突っかかりなくスムーズに研究を完成させることができます。そんな卒業研究は卒業要件であり、おそらく一生に一度の大仕事です。しかし、無事に完成を迎えることができたときには達成感を感じ、記念にも残りますので友達や家族で共有してみたいはいかがでしょうか。是非とも先生方や学生達と作り上げてきた大学生活の集大成を思い出と一緒に卒業研究と

して形に残しましょう。

そして最後に、私はこの2年間のゼミをとおして本当に色々なことを学ぶことができたと感じています。ゼミに加入する前は日本のみならず海外の記事にはあまり関心がなく、その時々で見たいと思ったものにはしか触れてきませんでした。そのようなちっぽけな人生の中、小林先生の教えのもとで改めて世の中の大きさを知り、自身の視野の狭さを俯瞰して認識することができました。皆さんが今当たり前に感じていることは一切当たり前ではなく、誰かの支えがあってこそ存在していること、また世界中に蔓延る多種多様な社会問題を無視してなる固定概念に過ぎないということを再度認識して頂きたいです。小さな当たり前でも気づかせてくれる授業を素晴らしいと思いませんか？小林ゼミならきっと皆さんの助け舟となってくれますので是非とも受講してみてください。



梅谷博之ゼミ

専門領域研究講座

前学期には、言語学の諸分野における基礎概念を学習しました。音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論、社会言語学などの各分野から具体例を出しながら、言語学の研究対象や分析方法を学びました。

後学期には、論理的な文章を書く練習をしました。与えられた悪文を自分で修正する作業を通して、接続表現の使用法や論の構成法などを学習しました。

加えて後学期には、卒業研究のテーマを見つけることも目標に据えました。はじめに、過去の卒業研究題目一覧を参考にしながら、テーマ候補を各自で複数見つけました。その後、その内容を授業で発表し、皆から意見をもらい、内容を絞り込んでいきました。その結果、具体的なテーマが見つかった人もいますが、どのテーマにするかまだ迷っている人もいます。春季休暇中にさらに作業を進めて、4年次の卒業研究につなげる予定です。

履修生によるゼミ紹介、テーマ紹介を下に掲載します。

3年 内田 和希

梅谷先生のゼミでは自分のやりたいことを先生が親身になって一緒に考えてくれるようなゼミです。そして、ゼミ生みんなで意見を出し合えるような雰囲気です。

3年 染谷 姫奈多

梅谷ゼミでは言語学について深く学ぶことができます。分からないことをみんなで考え話し合いながら授業をすることができます。言語について興味がある人におすすめのゼミです。

3年 田中 瑠晟

私はカタカナ英語についての研究をしています。具体的には、日本で使われている「カタカナ英語」が英語母語話者にどのような解釈をされるのか、などを研究しています。

3年 塚本 悠斗

このゼミでは文章の修正の仕方や正しい文の構成について学べます。どのようにしたらわかりやすく綺麗な文章を作れるのかを、読みにくい文章を自分で実際に修正する練習をしながら、先生と一緒に学べます。

3年 豊島 智恵

このゼミでは、言語学について深く学ぶことができます。梅谷先生もとても距離が近く、話しやすいです。ゼミ生同士の意見交換をする場も多く、とても勉強になります。

3年 長野 佑紀

みんなでコツコツと問題や課題に取り組んだり、自分のテーマや意見をみんなとの意見交換を交えることで、再び自分の研究に活かせる楽しいゼミです。

3年 早川 諒

ゼミでは自分の意見が言いやすい環境を先生が作ってくださっているため、積極的に授業を受けることができます。また卒業論文に関しても、興味のあることを研究できるため楽しく学ぶことができます。

3年 降幡 茜子

日本語や英語に関係する研究の話などを、先生の話聞いてみんなで詳しく掘り下げていて、意見を交換しています。

3年 米本 佑大

梅谷先生のゼミでは、言語学、音声学を扱っているので、言語に興味がある人は楽しいゼミだと思います。私も言語に興味を持っていたので、梅谷先生のゼミに入り、現在は食に関するオノマトペの研究をしようと思っています。また、授業は落ち着いて、とても良い雰囲気で行っています。



2022年12月20日 2431教室で撮影

卒業研究

「卒業研究」の授業では、履修者が自分の研究の進捗状況を発表したり、研究上の問題を報告したりしました。そして、他の履修者からコメントをもらうことで、研究の進展につなげました。自分の研究対象とは離れたテーマに関しても皆積極的に発言してくれて、有意義な授業であったと思います。履修生によるゼミ紹介を下に掲載します。

4年 雨海 光希

梅谷ゼミは、全員参加型の授業です。わからないことに対してみんなで考え、解決までとことん理解していくそんな授業です。現在は卒論制作ということで、お互いの卒論の進捗状況を報告し合い、わからないところや、困っていることなどの共有をして自分の卒論をより良いものにしようと全員で頑張っています。自分のやりたいこと、興味があるものに対してとことんやりたいという人にはおすすめです。

4年 岩瀬 海輝

私たち梅谷先生のゼミでは、主に言語に関することを題材に卒業研究を進めています。基本的には、私たちゼミ生自身が、卒業論文で何を題材に書いていくのかを決めることが出来ます。また、研究や卒業論文の制作に行き詰った場合でも、毎週の授業で行われる進捗状況の発表で、先生だけでなく他のゼミ生の意見も聞けるので、サポートがかなり充実していると思います。発表の機会もあるので、自主性のある学生におすすめです。

4年 佐藤 渚

私は2年次に英語音声学を履修して、音声学に興味を沸きました。そして、卒業論文のテーマは、自分が好きな歌詞を主に音象徴の観点から研究しています。学問に関する知識はまだまだ浅いですが、新しい事を学ぶ度に楽しさを感じます。ゼミは皆思った事を発言出来る雰囲気があります。各々が興味関心を持って論文を執筆しているので、学習意欲が削がれることはありません。とても良いゼミです。

4年 田中 政彪

梅谷先生のゼミでは、自分たちが取り組みたいテーマについて考えることができ、自分の気になることについて探究するのもってこのゼミだと思います。毎週水曜日、進捗状況の確認のため、履修者一人一人発表を行っています。その中で足りない部分などについて他の履修者、先生から意見をもらい、より良いものを作るために努力しています。このように、自主性を持っている人におすすめできます。

4年 藤 一霖

私は2年間梅谷ゼミで学びました。1年目に言語学について学習し、2年目から自分が興味を持ったテーマを探しつつ研究し始めました。毎時間、発表者の卒業論文進捗状況を聞き、理解出来なかったところを質問したり、内容に関してアドバイスをしたりする形で授業は

進みました。私の発表に対しても様々なアドバイスを貰いました。他の人にアドバイスや質問をするためには、その人の研究内容をきちんと理解しないといけないので、様々な知識を身につける事が出来ました。

4年 大和 新之介

私はゲームの「専門用語」に研究対象を絞り、ゲームジャンルごとにまとめ、掴めた特徴からわかることを元に研究を進めています。当初は、何もアイデアが無く途方に暮れていましたが、梅谷先生含めゼミのメンバー全員と話し合う機会を頂けたことで、自分のやりたい研究を定めていくことが出来ました。ゼミというとお堅いイメージがあるかもしれませんが、とてもフランクな環境で学んでいます。

4年 山田 雄太郎

梅谷ゼミは各個人が研究内容とその進捗状況を発表した上で、先生と受講生全員からアドバイスやコメントをもらう授業スタイルです。私は航空業界への憧れから「航空管制英語」の言語研究として実際に日米の交信を記録した上で分析を行なっておりますが、授業内では自分が思いつかないアイデアや意見を頂き、論文執筆の手助けに繋がっております。

4年 渡邊 海斗

私は梅谷先生のゼミで言語学を研究しております。私の研究テーマは「青森方言の擬音語に後続する助詞『テ』、『ト』に関する考察」です。言語学は範囲が広く難しい内容ですが興味深い学問です。先生含むゼミのメンバー皆で協同しながらお互いに高め合える環境です。とても有意義な時間を過ごしています。



2022年12月21日 2431教室で撮影

川成美香ゼミ

専門領域研究講座



3年 佐藤 大輝

川成ゼミでは「社会言語学」について学んでいます。社会言語学とは、言語と社会の関係や、特定の場面における言語の使われ方を研究する学問です。例として、地域・人種での言語選択の違い、年齢による言語の違い、丁寧表現等を学びます。我々の日常やあらゆる場面で使用している「言語」というものが、その時々状況や文化などによって異なることを学ぶことができ、とても面白い分野の学問です。

このゼミの授業では、前学期に洋書の文献、そして後学期には日本語で書かれたテキストの輪読を行います。輪読は、担当者を決めて、その章の要点をレジュメとしてまとめて、プレゼンを行います。そのレジュメは、メンバー全員に共有し、最終的にはmanabaのゼミ掲示板にもアップします。そのため、ただ単にまとめるだけでなく、全体的に見栄えの良いものを作成する必要があります。川成先生から「ここはこうにしたらもっと見やすくなる」といったアドバイスを適宜いただけるため、この1年で資料を作るスキルが格段にアップしたと感じています。また、最初に扱う英文のテキストは、自分

で翻訳した上でレジユメの作成にあたるため、英語力も鍛えられます。プレゼンの場では、メンバーとの意見交換や、先生からの解説やコメントをお聞きして、社会言語学の専門知識がより深まっていきます。

後学期からは、いよいよメインである「ゼミ論文」の作成に入ります。各自が自分で論文テーマを決め、文献をリサーチしたり、独自の調査を行ったりしながら研究を進めていきます。私は「若者ことば」をテーマにゼミ論文を執筆しました。具体的には、若者ことばには男女差があるのかを探る日本語と英語の比較研究です。この研究の動機は、私が日頃から SNS を利用していて、「若者ことば」を頻繁に目にする際に、男女差の存在が気になったことです。研究の方法として、Twitter やアンケートを実施しました。アンケートでは、友人やエムラックの先生方にもご協力いただきました。このテーマは、以前から興味のあるものでしたが、実際に研究としてとり組んでみると、これまで見たことのない若者ことばに遭遇することもあり、楽しみながら研究を行えたと感じています。

川成ゼミでは、ゼミ論文を完成させたのち、後学期末に、3年生が執筆したゼミ論文、4年生が執筆した卒業論文の合同発表会を毎年行っています。ここでも、自分の研究内容を発表用のレジユメとしてまとめます。私のゼミ論文は、最終的に合計 28 頁と、内容がかなり盛りだくさんになってしまい、要点を指定された枚数以内にまとめることが非常に困難でした。コロナ禍以前の発表会は、大学の「勝浦セミナーハウス」で行っていたのですが、今年度は 1 月 31 日に図書館ラーニングcommonsで開催されました。セミナーハウスには行けなかったものの、昨年までの ZOOM でのオンラインではなく、3年ぶりの対面での実施となりました。発表者全員がオリジナリティーのある研究成果を出し、とても有意義な時間を過ごせたと思います。特に 4 年生の先輩方のレジユメは、表・グラフを多く使用しており格段に見栄えが良いものでした。また最後には、4 年生から卒論と就職活動の両立のコツや、就職活動自体についてのアドバイスをいただきました。

今年度のゼミは、川成先生の「異文化コミュニケーション概論」の授業も併せて受講し、充実したゼミだったと実感しています。社会言語学の知識のほか、資料作成のコツなど、今後役立つスキルも着実に身につきます。言語学に興味のある方、資料や論文作成のスキル向上をさせたい方は、ぜひ川成ゼミで学んでみてください。

ゼミ論題目一覧

秋元 真憂	アニメ作品にみられる会話スタイルの日英比較
今井 博之	米国のスラング使用
佐藤 大輝	現代の若者ことばの男女差—日本語・英語の比較—
田部井富彦	日本語とルーマニア語のことわざ比較
原田 勇輝	ポライトネス—日本語話者と英語話者のストラテジー比較—
姫岡 優太	AAVE の特徴からみた黒人音楽

卒業研究



4年 松浦 健吾

川成ゼミは「社会言語学」についての研究を専門としています。「社会言語学」とは、社会においてことばがどのように使用されているのか、言語使用を探る学問分野です。例えば、年齢、性別、地域、民族、社会階層等におけることばの使い方を研究する分野です。

3年次ゼミ「専門領域研究講座」では、英語と日本語のテキストを使用し、「社会言語学」に関する専門知識や研究方法を学びました。授業形態としては、ゼミ生がテキストの内容をレジュメにまとめて発表形式で解説するというかたちをとっています。レジュメの作成は当初は難しく感じましたが、川成先生の指導のおかげで少しずつ上達していきました。このレジュメの作成は、ゼミ論・卒論発表会でも必要となるので、2年間を通して資料作成のスキルを磨くことができます。3年次ゼミの後期には、各自のテーマを設定することから始めて「ゼミ論研究」を行いました。「社会言語学」はデータを拠り所とするため、「オリジナルのデータであること」を特に意識して制作に取り掛かりました。このゼミ論研究は、4年次での卒業研究の練習や準備となります。ですので、卒業論文では、ゼミ論よりもさらに深く発展的な研究が求められます。

4年次の「卒業研究」では、まず就職活動と同時進行で、卒論制作の準備から始めました。授業が始まった4月-5月は、就職活動を優先しつつも、卒論制作もテーマを決める段

階から少しずつ進展していきました。毎週の授業は、図書館のグループ学習室で、全員一斉の時と、1人約20～30分の個人指導を頻繁にいただきました。個人指導では、就職活動での悩みなどにも真摯に向き合ってください、とても心強く感じました。また卒論制作に関しては、授業の時間以外でも、個別に相談できる機会を設けてくださるので、就職活動と卒業論文の両立が上手くできていたと感じています。6月頃には本格的に卒論制作がスタートし始めました。その頃は同時に、3年次でやり残したテキストの章について、メンバーが各自の卒論テーマと関係のある部分を担当してのプレゼンを行い、テキストは全て読破しました。特に私自身に関しては、卒論のテーマはゼミ論とは全く異なるものにしていたので、さらに新しい専門知識を学ぶことができ、非常に有意義なものでした。

私の卒業研究のテーマは、メタファー（比喻表現）についてで、「色彩語を含むメタファー表現～黒・白・赤を対象に日本語と英語の比較研究～」と題して、膨大な言語資料であるコーパスも活用して研究を行いました。秋頃には、使用するデータや、論文の大まかな流れが定まっており、執筆も始めていました。12月には、最後まで書き終えた卒論の第1次提出があります。そこからゼミ論・卒論発表会までは、自分自身で推敲したり、川成先生に添削していただいたものを基にして、修正したり加筆したりを何度も繰り返しました。

卒論発表会は、1月末に図書館のラーニングcommonsで行われました。本来であれば、勝浦セミナーハウスでの合宿というかたちで行われるはずでしたが、新型コロナウイルスの感染状況を考慮し学内で行われました。ですが、昨年の発表会はZOOM上で行われたので、今年は「対面」で行うことができたのがとても嬉しかったです。発表会は3年生のゼミ論発表会との合同開催でしたので、学年を問わず、全員が素晴らしい研究成果を共有することができたと思います。自分にはない視点からの研究や考察がみられ、とても価値のある時間でした。3年生は来年度に卒業研究をすることになりますが、我々4年生の発表が何かしらの参考になればいいなと思います。



卒論・ゼミ論合同発表会 23 / 1 / 31

最後に、2年間熱心に指導してくださった川成先生に、川成ゼミメンバーを代表して、心からの感謝をここに記させていただきます。

河原伸一ゼミ

河原ゼミで人生を変えませんか 簿記合格

河原ゼミでは、大学在学中に取っておけばよかった資格ランキング上位の日商簿記検定3級合格を目指しています。3級レベルの「商業簿記」をマスターした後、2級レベルの「商業簿記」「工業簿記」も学習しています。社会人時代の財務部勤務経験を活かし、会計理論だけではなく、ビジネスパーソンがお仕事で使う実務レベルの会計知識も指導します。就活でも、志望企業や競合企業の財務状況を判断できるようになります。計数感覚が身につく、説得力のあるプレゼン資料を作成するのにも大いに役立ちます。

また、「BATIC（国際会計検定）」のテキストを使い、会計知識の他に、ビジネスに役立つ英単語を身につけることもできます。英語検定試験に出てくる financial statements などのビジネス関連表現を立体的に理解できるようになり、スコアアップを期待できます。

河原ゼミに入ってから、数か月間、集中して日商簿記3級の問題を繰り返し解きまくり、3級に合格できました。合格で自信がつき、今は簿記の知識を活かせる my dream job に向け勉強中です。河原ゼミのおかげで、充実した日々を送っています（赤木心胡）。

私は簿記に興味があり、河原ゼミとのマッチング度は高いと感じ、河原ゼミにしか応募しませんでした。よく分からない仕訳は、ゼミ生同士で教えあえるアットホームな雰囲気なゼミです。日頃の学習成果が実り、日商簿記3級に合格できました。学んだ簿記の知識を4月からのお仕事でも役立てたいと考えています（大田貴美子）。

私は英語以外の資格も取りたいと考えています。英米語学科で簿記を学べるゼミは、河原ゼミしかありません。3年生の後学期は、「工業簿記」を学んでいます。河原先生がホワイトボードに書く計算式と数字が自分の頭の中で「かちっと」整理できたときの感覚は最高です。今日も成長できたなと実感できる瞬間です（上杉和奏）。

私は河原ゼミで、最初は全く知識がなかった簿記を勉強してみるにつれて、簿記以外の色々なことについて自分から勉強してみたいと思うようになり、学ぶことに対して意欲的になることができました。簿記の勉強をきっかけとして、人生が変わってきている気がします（秋葉ユリヤ）。

絶対に入りたいと思ったゼミは河原先生のゼミだけでした。その理由は、簿記の勉強もできる唯一のゼミだからです。高校時代、簿記を勉強したことがありますが、卒業後の仕事も視野に入れて、実践的に学びたいと思いました。河原先生は社会人時代、財務部勤務があり、実務での苦労話を交えながら簿記を実践的に教えてくださいます（椎名大祐）。

Who is Prof. Kawahara?

河原先生は、国家公務員として国内・海外で豊富な勤務経験があります。先生のお話は、モスクワの日本国大使館勤務や内戦中のタジキスタンへの出張など、まさに「リアル」で、まるで映画を見ているようなワクワク感のある世界です。また、先生は外国語学習と資格取得が趣味です。英語通訳案内業免許の他、証券アナリストや行政書士、宅建士など多くの資格をお持ちで、ゼミ生一人ひとりに合わせて取得しておくの良い資格を教えてくださいます。自らの経験をもとに、就活に向けての準備から社会で生き抜いていくために必要なことまで教えてくれるのが、河原先生です（吉野実花）。

新聞を読んで知識と情報分析力を伸ばしませんか

河原先生は、中央省庁やモスクワの日本国大使館の調査部門、アメリカ・ボストンにあるフレッチャー法律外交大学院で、情報分析の訓練を受けてきたプロです。

2023年1月5日の日本経済新聞に次の記事がありました。河原ゼミでは、このような新聞記事を理解できるようになります。「楽天グループは、保有する米ライドシェア大手リフト株の減損処理を実施。連結決算（国際会計基準）では四半期ごとに時価評価しているほか、デリバティブ契約により評価損益をヘッジしている」。河原ゼミでは「減損処理」「国際会計基準」「ヘッジ」などの用語を学生自身が自分の言葉で説明できるようになるまで丁寧に指導します。

河原ゼミでは、先生が厳選した新聞記事をみんなで読み解き国際事情を知ることができ、ゼミ生の理解度に合わせて「新聞初心者」でも楽しく学ぶことができます。私が成長できたなど感じる瞬間は、いくつかあります。例えば、円安について学ぶ機会がありました。今まではテレビニュースで見てもインターネットで見ても分からない言葉や仕組みが多くありました。しかし、ゼミで円安の記事を読み、先生が一から全て分かりやすく説明してくれるので、その後、円安のニュースを見ると学んだ言葉がたくさんあり、「悪い円安」などについて「分かる」を実感できる場面が増えました。今では、「自分の言葉」で円安について説明できます（上杉和奏）。

授業では河原先生が厳選した今週一推しの新聞記事について精読します。時事問題を通じて、経済金融用語など社会人になったら必要な知識について理解を深められる点をすごく気に入っています（小島梨乃）。

私は河原ゼミに入るまで新聞を読むことがありませんでしたが、このゼミで新聞を読むようになり、社会での一般常識と専門知識を身につけられることが最もためになる活動だと思います。ゼミで時事問題に触れることで、自然と今まで以上に時事問題に対し興味を持つようになり、今では日経電子版に目を通す習慣ができました（大田貴美子）。

私のゼミのお気に入り、河原先生による新聞記事の解説です。普段は読む機会のない新聞を読んで、内容について様々な角度から解説してもらえるので、物の見方が広がる点がとっても良いと思います（新藤世偉）。

河原先生は、今まで学習してこなかった内容や、皆があまり知識のない範囲について細かい解説付きで教えてください。内容はそこまで簡単なものではないのですが、毎回新しいことを学ぶことは楽しく、就活の面談などでもとっても役立ちました（長谷川優花）。



政策勉強会

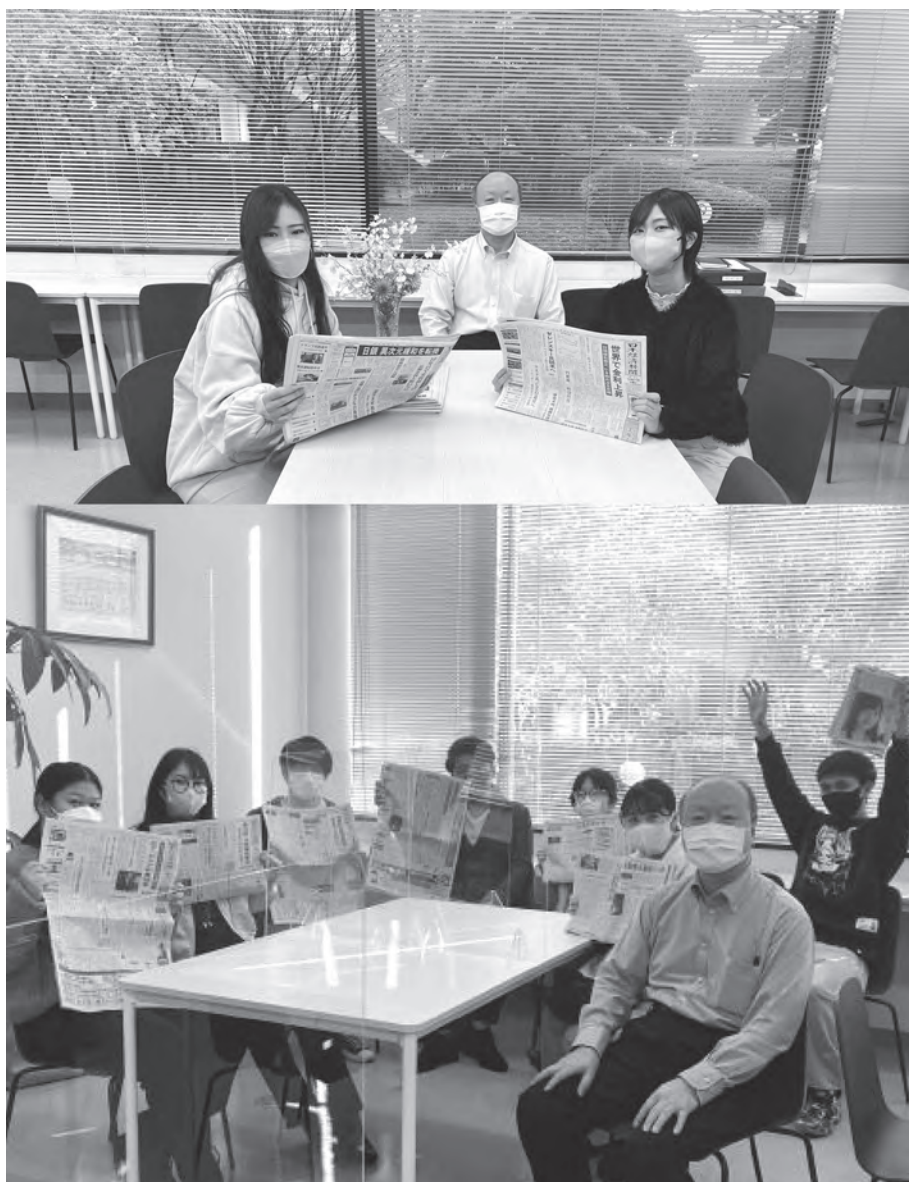
新型コロナの世界的大流行で制約がありましたが、政策勉強会を開催することができました。3年生は浦安市役所職員と浦安市の「青少年問題」について意見交換できました。社会の第一線で活躍されている社会人との意見交換は、ゼミ生にとって新鮮な体験だったと思います。

政策勉強会を通じて市役所との人的ネットワークもでき、卒論では貴重なデータ提供を受けることができました（大田貴美子）。

2年生の皆さんへ

自分が今将来何をしたいのか、まだやりたいことが分からないという方、河原ゼミで吸収できるものはたくさんあると私は感じています。河原先生は、これまでのすごい経験を活かし、様々な視点から物事を見る方法を教えてください。自分の視野を広げたい、社会で生きていくための知識を学びたいという方におすすめだと思います（秋葉ユリヤ）。

堅苦しい雰囲気もなく、比較的自由度の高いゼミですが、故に高い自主性を持って学び続ける事が大切だと思います。4年生になると授業の数も減り自由に使える時間が増えるように思いますが、学内外の就活セミナーに参加したり、1日に立て続けに何社ものオンライン説明会に参加したり、面接を受けに片道1時間半電車で揺られたり、自己PRを考えたり、履歴書を書いたり、面接の練習をしたり、卒論も進めつつ加えてアルバイトもして、となると意外と時間もないしストレスも溜まります。3年生までのうちに学生らしい遊びもしつつ、就活に備えて資格取得や卒論のテーマについて情報を集めておくのがよいかと学生生活もあと少しで終わりを迎えようとしている私はヒシヒシと感じています。河原ゼミで、今から始めれば超★余裕！だと思っているので、応援しています（小島梨乃）。



小谷哲男ゼミ

専門領域研究講座

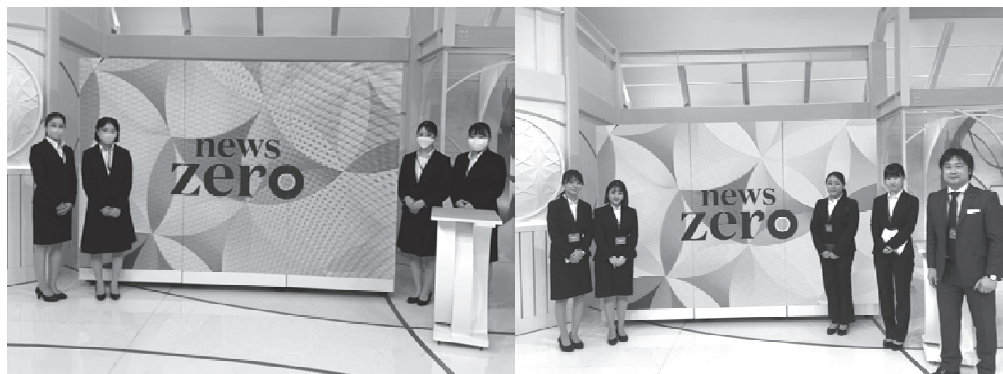
小谷ゼミではアメリカ情勢やグローバル課題に関する幅広いテーマについて研究し、これからの国際社会で働くために必要な知識を身につけることができます。

授業内容

ゼミでは、まず国際政治の基本的な概念とリアリズムおよびリベラリズムという2つの理論を学びました。続いて、言語、人口、移民、宗教、観光、環境、貿易など、様々な観点から現代の世界でどのような出来事が起きているのか、どのような変化や動きがあるのか理解を深めました。また、ロシアによるウクライナ侵略について、以上の知識に基づいて、なぜ侵略が起こったのか、世界にどのような影響を与えているのか、そして日本には何を求められているのか考えました。

毎回の授業では、文献を読み、データを分析した後にレポートを作成し、発表しました。そして、発表後には疑問点や論点についてゼミで議論し合うことによって、最後に小谷先生からの講評や私たちゼミ生では理解できなかった点についてより詳しくまとめ、1つの出来事でも様々な見方があることを学びました。様々な見方があることを知った上で、自分の考えを持ち、それを客観的かつ論理的に説明できるようになることの重要性に気づきました。ゼミの授業を通じて、将来グローバル社会で活躍していくために必要な知識を得るだけでなく、学んだことを活用していく能力も身につけることができました。また、ゼミではTOEICの特訓を通じて、英語力の向上にも取り組みました。

学期末には1万字のゼミ論文を作成しました。まず、自分の関心あるテーマから課題を発見し、資料を一から集め、整理し、自分の主観から離れて客観的に物事を捉えるという作業は慣れないことばかりで、とても難しく、レポートを完成させるのに苦労しましたが、この経験から説得力を持たせるための論理的思考力や文章力を高めることができました。この作業を通じて、課題発見力と解決力を高めることができました。



キャリアサポートと課外学修

ゼミでは授業以外にも就職活動に向けた研修や課外学修を実施しました。まず、様々な業界・企業の人事担当者が就活生に知っておいてもらいたいと考えているテーマについて学びました。これによって、企業が貿易や為替などの経済問題だけでなく、多様性や環境問題など広く社会問題に取り組める人材を求めていることがわかりました。

課外学修では、日本テレビと ANA を訪問しました。日本テレビでは、報道局と news zero の見学を行い、報道番組がどのように作られているのか、どのような使命感に基づいているのか、どのように視聴者にアピールしようとしているのかを学びました。ANA では、客室乗務員と地上係員の業務内容について知ることができました。華やかにみえる客室乗務員ですが、じつは乗客の安全を守る保安要員としての役割が大きいことを知りました。地上係員は、搭乗手続きだけでなく、乗客が航空機に搭乗するまで目に見えない作業を数多く行っていることに気づきました。

実際に企業を訪問し、職員の方々の話を直接うかがうことは大変貴重な機会となりました。これらのキャリアサポートを通じて、就職活動の軸が広がりました。



小谷ゼミ：小堀光梨、坂本海璃、坂本奈巳、田上綾乃、中川綺乃、齊藤芙嘉、堀江遙菜、水出真尋

卒業研究

小谷ゼミでは、アメリカ情勢やグローバル問題に関する幅広いテーマの理解を深めるとともに、論理的・客観的思考を養います。

授業内容

前学期の授業では、主に地政学と国際情勢に関する教材を用いて、世界で起きているさまざまな問題を理解するよう努めました。とりわけ、ロシアによるウクライナ侵略について、その原因や、世界への影響、日本として何をやるべきなのか考えました。事前課題として、教材を読み、問題に対する疑問点や論点、さらにそれに関する自らの調査をレポートに要約してまとめることで、よりその問題に対して理解を深めました。そして授業内では、各々が担当部分の発表をしたのち、他のゼミ生からの質問やコメントに答える形で議論を行い、事前課題で調べた以上のことを学ぶことができました。また、ゼミでは TOEIC の特訓や英文読解などを通じて、英語力の向上にも取り組みました。

後学期の授業では、主に卒業論文の作成を行いました。3年次の「専門領域研究講座」で学んだことや、4年次の前期で学んだことの中から関心のあるテーマを卒業論文で取り上げました。卒業論文のテーマの選定、リサーチクエスションの設定、手法と構成の確定、資料の分析という過程を通じて、リサーチクエスションに対する答えを導き出す中で、社会人にとって必要となる論理的・客観的思考と高い文章力を身につけることができました。



就職活動と課外学修

課外学修では、三菱商事やヒルトン東京ベイ、日本航空の職員の方々の貴重なお話を聞くことができました。三菱商事の講義では、幹部の方から総合商社がどのような仕事をしているのか、ビジネスとは何か、そして特に世界中に広がるサプライチェーンの実態を知ることができました。ヒルトン東京ベイの研修でも、幹部の方からホテル業界の現状や将来性、魅力についてのお話を聞くことができました。日本航空の幹部の方からは、客室乗務員の心構えを教えていただき、サービスを行う上でのポイントを学ぶことができました。総合商社業界とホテル業界、航空業界のお話を聞いて共通していたのは、国際情勢が常に経営に影響を与えているということでした。国際情勢を学ぶ重要性について再確認できた貴重な経験となりました。

小谷ゼミでは内定率 100%を目指しています。コロナ禍で航空・観光というヒトに関わる業界の門戸が狭まる中、希望していた業種での就職をあきらめざるを得なかったゼミ生もいましたが、ゼミ生全員が公務員や教職、通信、不動産など、これからの社会でも重要な業界に就職することができました。就活は不安ばかりでしたが、エントリーシートの内容や、面接でのアピールポイントなどについても、ゼミで指導を受けることができました。



小谷ゼミ：鈴木梨杏、千野田優希、武藤美優、重岡メリアン明子、中村有来、寺澤夏那、須崎瑠光

嶋田珠巳ゼミ

専門領域研究講座



写真は議論型ランチにて。この日集まれなかったメンバーもゼミで活躍

4年 内田 萌香

私たちのゼミは、言語学に関わることであれば何でもありの自由なゼミです。若者言葉について興味がある人、呼称（人や物の呼び方のこと）の違いについて興味がある人、言語の発音や文法の違いに興味がある人、記述や発話（言語を音声として発すること）、ジェスチャーの言語使用について興味がある人、言語そのものに関心がある人など様々な人と出会えます。

前期は、日本語と英語の言語学に関するテキストの要約と発表、自分の興味のある本の内容紹介をしました。5月には英語で書かれた言語学に関するテキストをグループに分かれて要約し発表をしました。コロナウイルスの影響により、対面での話し合いをする時間を取ることが難しく、SNSを活用し、意見交換を行っていたため、意見をまとめるのが大変でした。発表の時間の後には、質問や考えたことを述べる時間があり、自分一人では気づけないことを知れたり、難しい用語がでてきた時には、嶋田先生が分かりやすく説明してくださいました。また、6月から7月にかけて本の紹介を行いました。普段読まない本を知りきっかけにもなり、選んだ理由なども人それぞれで面白かったです。

後期は談話分析の方法や若者言葉についてなどそれぞれが興味のあるテーマから、グループ発表を行いました。私は日本語を母語としない人たちにとって日本語の習得がどのくらい難しいのかが気になり、柴谷方良さんの「日本語は特異な言語か？」をもとに、要約、考えをグループでまとめました。私は日本語が特殊な言語だと考えていましたが、世界の言語と母音や文構造などを比較していくと、一般的であるということが分かりました。明海大学の図書館にある雑誌に収録されているので、気になった方にはぜひ読んでほしいで

す。前期と同様に、発表だけでなく、その後の意見や疑問を共有する時間がしっかりと設けられました。日本語が特異でないと考える人の意見を聞くことでより興味が広がり探求心が強くなりました。グループ発表後には、1年を通して自分が一番興味のある読み物素材やトピックを選び、分析や調査など自分の興味を深ぼりしたレポートを書きました。私は「日本語は特異な言語か？」の中にマレー語と日本語はお互いに習得しやすいと書かれていたため、本当にそうなのか語順や音、文法を調べ調査しました。本を読むことで自分の興味が一気に広がっていくことの楽しさを感じられ、何よりもゼミで意見を共有することで自分一人だけでは理解できないところも仲間と協力をしながら、発表の準備を進めていくことができました。ゼミに入る前は人前で発表することを苦手としていましたが、全員が真面目に取り組んでいるので、発表しやすい雰囲気です。また嶋田先生がとっても明るい方なので、ゼミの雰囲気を和やかにしてくれます。そのため、発表の際に緊張することなく自然体で臨めます。自分の興味があることを調べ、まとめ、発表し、仲間たちと共有することで、情報収集や整理能力、論思考能力、表現力が身に着きます。

今年度はコロナウイルスの影響によりゼミ合宿は行われませんでした。議論型研究会という発表とディスカッションを行う会が嶋田先生主催の元行われました。2日間かけて行われ、全部で4つの研究発表、5つの話題提供、6つの卒業論文紹介が行われました。発表者は学部生、院生、教員、教員OBの方から募るため普段の授業とは交流できない人達と議論することができ、学会のような雰囲気でもとても新鮮でした。私は議論型研究会のサポーターとして参加しました。タイムキーパーという重要な役割は少し緊張しましたが、参加してよかったと心から思います。3年のゼミからは、後期にジェネレーションギャップについて調査をしていたグループが発表をしました。昭和、平成、令和に流行した言葉の特徴から、ジェネレーションギャップがどのように生じているのかを考察しており、「エモい」や「エグい」などの言葉が紹介されました。4年生の方達は卒業論文のテーマをもとに発表をしているため、ゲームの翻訳された言葉についてデータをとっている人、駅の注意喚起ポスターの写真を集めている人など、自分の興味のある事柄から情報収集をして、それに関する考察を発表していました。先輩達の発表を聞き、自分も4年生になったらどんなことを研究しようかとわくわくしました。また、教員、教員OBの方達の発表では授業とは違う一面を拝見することができました。ディスカッションの時間には、発表を聞くと様々なことが気になり、時間が足りないくらいでした。一つ一つがとても興味深いテーマで、とても勉強になり、たくさんの刺激を受けました。今回はサポートメンバーとして参加しましたが、来年には、自分の興味や疑問について調べ、自分の考えを共有できるよう、残りの1年間を無駄にしないように過ごそうと強く思えるきっかけになりました。ゼミでの出来事を振り返ると、本当に学び多き1年であったと感じます。コロナだからと言い訳せず、自分から行動し学び続ける姿勢の大切さをゼミの活動を通して知ることができました。



4年 佐藤 然

この明海大学では、3年生になると色んな分野から一つ“自分で選んで”興味のあるゼミに所属します。言語、政治、文学など他にも沢山ありますがその中から選んで入ります。3年次から所属したゼミと自分の学びたい事が変わった場合でも4年から変える事も可能なのでそんなに心配する事もないですが、もし今やりたい事や卒論のテーマが見つからない場合は、一旦一歩引いて自分や身近にある物に目を向けてみるのはどうでしょうか。

嶋田ゼミでは主に「言語」に関する事について取り扱っています。今年は漫画の中の言葉や方言、ゲームの中の言葉について研究をしている人などいて、自分が見ている視点とは別の視点を知れてとても面白かったです。

また、言語と言っても色々あるので、ふんわりと「言語関係がいいなあ」ぐらいに思っている人でも、自分が想像している範囲と他の人が想像している範囲がゼミに所属する事でぶつかり、二乗され共振する事で新しい世界が広がると思いますので、一度嶋田ゼミが主催している議論型研究会に一瞬だけ顔を出してみる事をおすすめします。私も先日「言語景観」というテーマで発表を行いました。ざっくり省いて説明すると、実際に現場に行き自分で写真を撮り集めてくる実地調査で、街中のポスターや駅構内にあるポスターの中

の文字やイラストを分析して関連などを見つけ出すという調査です。

今年度からはゼミ合宿などゼミのイベントなども復活してきてより深い学生生活を送れると思いますので、是非今から情報を収集して面白そうなゼミを選んでみてください。



4年 黒田 紗希

嶋田先生のゼミは、言語学についてたくさん学べます。最初は、私は言語学って何を学ぶのだろうと不安でした。先生は、少しずつ言語学について興味を持たせるように課題を出してくれます。一番印象に残った課題は、「自分の好きな本を発表をする」ことです。ゼミメンバーにどんな本が好きなかを伝えられ、そこから話の輪が広がっていきコミュニケーションをとるきっかけになりました。

また嶋田ゼミでは議論型研究会があります。三年時にはゼミメンバー全員で協力をして「非関西人の関西弁使用のネンとシテモロテを中心に」の研究発表をしました。初めての、



研究発表でした。緊張もしましたが、仲間と一緒に協力をして一つの研究をしていくことはとても大変でしたが、ゼミメンバーと交流する機会も増えて、自然と仲良くなりました。四年生の議論型研究は自分の卒業論文の発表をします。私は、『役割語からみるキャラクター {僕/ぼく/ボク}の使用について』というテーマで卒業論文を書き、発表しました。

役割語というのは、簡単に説明するとキャラクターの喋り方からどんなキャラクターかを想像できる言葉遣いのことです。私はアニメや漫画が好きだったので、好きを活かして卒業論文を書きたいと思い、このような題材にしました。調査をしていくうちに、漫画に対する考え方が変わり、研究発表をして自分に自信ができました。議論型研究は研究発表をすることに加え、多くの人の研究発表を聞けるので知識も増え、自分に自信がつくようになると思います。



辰己雄太ゼミ

専門領域研究講座・卒業研究

ゼミ紹介

私のゼミでは、学生が言語に関して自分で疑問を見つけ、その疑問に対する自分なりの分析・解決方法を考えていけるように、様々なトピックを扱っています。学生による発表・意見交換を積極的に行うことで、「自分が疑問に思ったことがなぜ興味深いのか」、「その疑問を解決すると、どのような良いことがあるか」について、学生が自分で考えられるようになることを目指しています。

以下では、実際のゼミの様子を伝えるために、現在ゼミに所属している学生を対象に実施したアンケートへの回答を、抜粋して紹介していきます。

学生へのアンケート

Q. このコースを選択した理由は何ですか？

- A1. 先生で選びました。
- A2. 自分の学びたい言語学の方向性と合っていて卒論の作成に活きると感じたから。
- A3. ゼミの内容が自分にとって興味のある内容だったことと、辰己先生の人柄。
- A4. 先生の専門分野に興味があったから。先輩の卒業研究を見て、自分も似た内容がやりたかったから。

Q. このコースでどのようなことが勉強できましたか？

- A1. プレゼンテーションのやり方、長い文のまとめ方、レジュメの書き方、調べた内容の掘り下げ方。
- A2. 自分が選んだテーマ(方言について)をどこまで深掘りするべきなのかを勉強できた。同じゼミの学生から予想外の質問がくるため、自分の予想よりも調べあげることが大切だと学んだ。
- A3. 日本と世界の言語を比較するプレゼンが多いため、このゼミに入らなければ知りえなかった言語の知識が増える。プレゼンを多く行い構成のアドバイスをもらえるため卒論を書きやすくなる。
- A4. 言語についての知識はもちろん、自分が気になる題材をピックアップしてプレゼンするので、プレゼン能力も身につきます。

Q. これからゼミを選ぶ学生に、何かアドバイスをお願いします。

A1. 実際にそのゼミの先生に会いに行くことは重要かもしれません。

A2. 自分が卒業までに学びたい内容を専門としている先生のゼミを選ぶことをおすすめします。友達と一緒に、この先生は楽だからなどの理由だとつまらなくなってしまうと思います。

A3. もちろん友達がいるから選ぶというのもダメではないと思う。でも将来に生きそうなゼミを自分の力で選ぶのが一番良いと思う。

A4. 辰己先生のゼミは何回かプレゼンをする機会があるので、資料を作成したり人前で話すことの経験が出来るので良いと思います。

A5. 辰己先生の授業では、プレゼンテーションが多く、人前で自分の意見を述べる機会が多いゼミです。当初は緊張しましたが、回数を重ねる度に慣れてきて、その経験が今では自信に繋がりました。緊張するのは当たり前なので、その殻を破るのは難しいですが、やれば出来ると自分に言い聞かせれば、堂々と人前で発表することができると思います。人前で話すことの抵抗感を少しでも払拭し、自信をつけたい方はぜひ辰己先生のゼミを選んでみてはいかがでしょうか？



ケイコ・ナカムラゼミ

専門領域研究講座

This seminar explores the field of psycholinguistics; in other words, the psychology of language as it is related to learning, mind, and brain, as well as to society and culture. It is a *zemi* of exploration, discovery, and questioning, with discussions and presentations. We constantly ask questions and discuss many topics, viewing and analyzing video clips on animals, children, and adults to explore the fascinating mysteries of language, communication, and psychology. What is amazing about this zemi is the students' curiosity and wide range of interests, as well as their motivation to do everything in English- discussions, reading, writing, presentations. They have worked hard and improved their English skills greatly.

During the first semester, each student chose an animal (e.g., horses, foxes, dogs, whales) to research and examine whether their animal was able to “communicate” and/or “use language” based on video clips and photos of their own pets and from YouTube. Next, we explored first language acquisition, second language and foreign language acquisition, sharing our experiences and frustrations learning English, as well as other foreign languages.

During the second semester, we focused on a variety of topics in psychology, by reading *40 Studies that Changed Psychology* (2015). Each student selected a chapter (topic) to read and summarize in a class presentation. As all of the studies were classic or state-of-the-art experiments from different fields of psychology, we were able to learn about numerous topics, ranging from behavioral psychology (e.g., conditioning/learning), cognitive psychology (e.g., memory, expectations) and motivation/emotion (e.g., facial expressions), to developmental psychology (e.g., moral development), social psychology (e.g., conformity, obedience), and psychopathology (e.g., depression, psychotherapy).

Here are the results of a Google Forms questionnaire administered to the class. The first question was: *What topics did you enjoy?* The most popular topic this year was *animal communication*, followed closely by *psychology*. *Child language development* and *second language development* were tied closely for third place.

The second question was: *What did you learn this year?* Students wrote:

- How animals communicate with other animals, as well as people. Each animal has its own way to communicate.
- How a child's mind and an adult's mind are very different.
- How the process to learn a new language is very complex, but fascinating!
- How learning a first and second language are different.

- How babies learn their language. Amazing!
- How people and animals can communicate without using words (e.g., gestures, body language).
- About the relationship between psychology and language.
- About many classic psychology experiments.
- About a lot of things like animal communication, child language, second language development, and psychology. But I must say that learning psychology was the best thing that we have done in this class! Most of us hadn't any idea why various things happen. So it was fun to learn about those things with experiments.

When asked what they enjoyed the most in the class, students wrote:

- (1) listening to each other's research presentations
- (2) working on activities, assignments and presentations
- (3) conducting research
- (4) giving presentations on interesting topics
- (5) watching videos on animals and children
- (6) discussing and debating different topics

Now, we are starting to think about possible topics for our senior theses next year.

I hope that each student will find an interesting topic that they will enjoy researching over the next year! I am excited to work with everyone on their senior theses.



卒業研究



The academic year 2022-2023 was another challenging Covid-19 year! I am impressed by our 4th-year students, who managed to survive through the rigors of job-hunting and successfully finish their senior theses and reports. This graduating class started their university life pre-Covid, but Covid struck in Spring 2020, and at Meikai University, we went online and then hybrid in the following two years.

Despite the fact that it was a difficult environment in which to conduct research and collect data, the students were motivated in their search for a research topic that they could immerse themselves in over their whole senior year. Students collected their data by using questionnaires, interviews, and observations. The topics varied from those in linguistics, psychology, and education, as well as global studies and performance/ creative arts. This year, we actually had more students writing their theses in English than ever before, and the quality of their work was impressive.

I would like to wish these amazing students the best of luck!

4年 君塚翔伍・椎葉晴斗・高橋凜・岩楯維央利

Do you need help choosing a zemi? Kei's zemi is one of the best options for learning psycholinguistics. In this essay, we will describe the zemi's atmosphere, the contents of the class, and our teacher's personality. Here is an outline of what we have studied over the past 2 years.

When we were 3rd-year students, we learned about and overviewed new aspects of animal communication from a psycholinguistic perspective, and children's development from the viewpoint of psychology and linguistics. These topics sound very academic, but the kind teacher

and atmosphere will help you to understand the contents and main ideas easily. Basically, all classes are conducted in English so that your English skills will improve and develop. Also, these classes require you to consider one topic from diverse perspectives, so you will be able to think flexibly and deeply. Even if you have trouble with your English learning, you can ask the teacher for help freely, anytime. In addition, you will need to prepare and give your own presentations in class. Therefore, you can develop skills necessary for your future career at the same time.

When we were 4th-year undergraduates, we each selected a topic and conducted research on our own topic independently. We selected a topic for our senior thesis (something that we are interested in) while utilizing the experience we learned through this zemi. We have been tackling and studying our topics, discovering new ideas with our teacher and classmates, and cheering each other on.

In terms of the teacher's personality, she is so kind that students can be relaxed and feel free to ask her anything, anytime, both in class and outside class. Remember, all classes in this zemi are taught in English. Therefore, students can be exposed to a wide range of English expressions in every class, brushing up their English skills further. In case students don't understand the teacher's English, she always paraphrases her English so that they can comprehend her explanations.

When it comes to the atmosphere in this zemi, every student strives to study English and research their respective graduation thesis topics. Most students in this zemi try to write their graduation thesis in English. If you would like to learn about psycholinguistics and brush up on your English skills, this zemi is the best for you.



林智昭ゼミ

専門領域研究講座

テキストの英文解釈 1 時間と、テーマについてディスカッション 30 分。丁寧に予習しても、その場で読んでも、親切に教えてくれる人を頼っても（黙々と読み進めても）、全員が参加しやすいペースの空間となるよう配慮して声を掛け合うメンバー。年度末が近づくにつれて 30 分で英文を読み終わるようになり、ディスカッションタイムの題材に悩んだ。読み慣れてきたのは英語力向上の証。議論するときの皆の笑顔は心の支え。ありがとう。

3 年 浅石 真秀

私の研究テーマは、言語の過去から未来までの変化です。言語は社会のコミュニティーから作り上げられ、他の言語コミュニティーとの接触の上で新しい言葉が生まれたり、言葉が使われなくなっていったりする現状があります。インターネットなど SNS が普及した現在、他の言語に接触することが容易になり、言語はより複雑になってくると思います。授業のディスカッショントピックは言語交替の話題が多く、歴史から、人との繋がりからなど、幅広い視点から考えることができることがこのテーマの魅力であると感じています。

3 年 石井 叶太

私の研究している内容は海外で使われる英語の意味の違いと日本で使われる英語の意味の違いについてです。例えば「チート」という言葉は、日本ではゲームの不正プレイヤーを思い浮かべますが、英語ではカンニングをするという意味があります。また「クレームをする」という言葉は、日本では苦情を入れる意味で使われますが、英語では主張をするという意味で使われます。このように、どういった経緯で使われる意味の違いが生じたのかを、和製英語や流行語大賞、外来語、ネットスラングなどに注目して研究しています。

3 年 上杉 丞二

私はイギリス国内で話されている「イギリス英語」の変遷を、歴史的・政治的観点から研究しています。「英語」は字のごとく英国イギリスで誕生した後、植民地支配とともに世界へと伝播し、現代では世界の公用語と呼ばれるまでに至りました。アメリカ英語とイギリス英語とでは発音やアクセントに違いがありますが、どちらの方が本来の英語の発音に近い、つまり「古い」英語だと思いますか？実は、伝来してきたアメリカよりも伝えたイギリスの方が、歴史的に見て発音における変化が大きい、「新しい」英語といえるのです。

3 年 倉持 里帆

私は林ゼミの言語学に関する学習を通じて、一人称の和訳に興味を持ちました。日本だと私や僕といった様々な一人称がありますが、英語では 1 つしかありません。私は好きなゲーム作品を通して、どのようにして一人称が決まるのかを、文法、テキストスタイルを見比べて研究しました。

3年 長門 明希

突然ですが動詞 **have** の意味は何でしょう？その通り「持つ」です。では、完了の助動詞 **have** の意味との繋がりは何でしょう？この問いに対する答えを、客観的な根拠をもって説明することが私の研究です。分析対象は完了表現だけでなく、**have to** や使役動詞と様々です。3年時は『現代英文法講義』を主として、完了の **have** の役割を文献調査しました。今後の課題は言語データを用いた用例比較、インフォーマント調査による地域差の分析です。

3年 奈良原 杏美

私たち外国語学習者は中学校から多くの英文を読んできました。私が注目するのは英文法です。英文法には色々な種類と意味があります。私は **World Englishes** の時代における日本と世界の英文法について調べ、どのような歴史と変遷があったのか、世界中の英語にはどのような特徴がみられるか、外国における英語の用法はなぜ日本では教えてもらえないのか、を調べています。

3年 福岡 拓馬

私は、人間が行うコミュニケーションにおける立場の違いによって、話し手と聞き手の間に発生する言葉の認識にどのような差があるのか、語用論的な視点から研究しています。例えば、レストランで注文する際に店員から聞かれる「プラス 100 円で利用できるドリンクバー」は、文字通り解釈すると「ドリンクバーを利用できるサービス」となりますが、「お店の利益を上げたい」という思惑を読み取ることもできます。この種の言語表現の意味を分析することによって、その背後に潜む話し手の心理に迫っていきます。

3年 福川 陽南

私は、同じものを示す言葉でも国や地域によって違いがあることや、地域独特の言葉、日本語が他国に入ったときの变化などに興味があります。本ゼミでは、形態論の「右側主要部の規則」を念頭に、日本の映画タイトルが英語に翻訳されたとき、固有名詞として意味を強く持つ言葉にみられる変化を考察しました。例えば、ジブリ映画の「魔女の宅急便」は **Kiki's Delivery Service** と翻訳されています。調査していくと、登場人物の名前が表記され、さらに強調されているという特徴に気づきました。将来的には、日英語それぞれで強調される単語の特徴や、変化する理由や背景を調べていきたいです。

3年 堀内 一貴

私は日本語と英語を主な対象とし、**whom** から **who** への交替、主語の省略についての比較（例えば、英語の **I went to the movie.** で **I** を抜くと意味が伝わらない一方で、日本語の「私は映画に行った。」で「私は」を省略しても意味が伝わる）を行ってきました。文法の差異、地域によって異なる **World Englishes** の多様性に注目し、なぜ世界での共通言語が日本語や他の言語ではなく、英語という言語であるのかを考察していきたいと思っています。地域の文化、言い回しなどの語用論的違いなどからも、共通言語のあり方を探ります。

卒業研究

3年ゼミが始まった頃には「先生！」と何度も笑顔で声を掛けてくれた皆が、就職・進学に向けて取り組む中で精悍な表情を見せるようになった。あまり頼ってくれなくなって少し寂しかったのは、ここだけの秘密。もう、何もかも手取り足取りやらなくていいんだな。

1年間の出来事を思い出す。授業中は真面目なキャラクターが率先して3年生を歓迎し、頼もしく相談にのる先輩に。誰よりも熱烈に「合宿をやりましょう」と企画するキャラに変貌したのは笑っちゃった。後ろ姿で静かに語る先輩もいるけれど、秋には満面の笑顔で合格報告に来て、数年越しに夢を勝ち取ったときの歓喜、思わず(?)感情を隠しきれてなかったよ。学生生活最後の思い出を作りながら、1年の授業時に得た着想を大切にしていって各々の研究課題を見出し、集大成となる卒業研究に取り組む姿は頼もしかった。

静かに情熱を燃やし、希望する進路を自力で掴み取って社会へ巣立っていく皆が眩しい。気づけば、自分の関心事は皆のことばかりだったし、生きがかった。日々の喜怒哀楽は、その分だけ感慨深くなるのだと思う。皆と一緒に歩めてよかったし、幸せだ。卒業おめでとう。将来が楽しみです。2年間、ありがとう。(以下、卒業論文要旨を掲載)

4年 岩垂 香菜

ラテン語由来の形容詞 *superior* は通例 *to* を用いて比較基準を示すにもかかわらず、現代アメリカ英語において比較構文で用いられる *than* と共起する例が確認できる。これは文法上、誤用であるとされる。本研究では、現代アメリカ英語コーパス *Corpus of Contemporary American English (COCA)* を利用して *superior* の用法がどのような特徴を持つのか調査し、先行研究によって明らかにされている、(i) 直前に *more* や *less* を置く場合と (ii) *than* が節を伴う場合に加え、(iii) 比較級と並列される場合に *superior* が *than* を導くことを明らかにする。また、比較級と強調の副詞による修飾が見られること、*the most* を使う最上級形の出現から、*superior* が比較の意味の希薄化につれて比較級としての用法を失い、今後新たに比較級・最上級を作る可能性を論じる。

4年 橋本 ありさ

日本人が英語を学習する上で、特に音声面に焦点を当てた場合、様々な困難に直面する。それは英語が母語とは異なる言語であり、様々な違いが両言語に見られるためである。英語の音声面を習得するには、どのような指導が効果的だろうか。本研究では、日本人の英語学習の過程で起こる音声的「負の転移 (*negative transfer*)」について、(i) 中学生・大学生へのアンケート調査、(ii) 発音指導を受けた大学生へのインタビュー、に基づき考察を行う。(i) より、習熟度ごとに異なる音声面の課題と、大学1年生と比較して、オンライン授業により対面授業での「活動」が失われた影響が2-4年生にみられることが浮き彫りとなった。調査結果を踏まえ、(ii) に基づき、歌を用いた参加型授業を取り入れた発音指導を行うことでどのような効果が得られるのかを議論し、学年ごとの指導案と留意点を示す。

4年 佐久間 亮汰

初年次教育のあり方が議論されるようになって久しいが、大学生時代の過ごし方、活躍する大学生の姿は、どの時代も注目される。本稿では、明海大学の英米語学科における「学び」のあり方を例に、学年ごとの課題と、4年間にわたる学修の展開を論じる。具体的には、大学生活の課題を「英語」と定めた筆者自身の学習経験を基に、オートエスノグラフィーにより記述していく。進路を定めて大学受験を突破し、カンタベリー短期留学で未知の文化に遭遇して意思疎通の難しさを実感した1年。コロナ禍でオンライン授業の日々を余儀なくされた2年。TOEICと英文法を課題とし、勉強会やゼミ後の議論に励んだ3年。就職活動で社会における自分自身のあり方を模索し、研鑽の集大成としてチェブ留学に臨んだ4年。語学力は簡単に身につくものではないが、学習の過程における出会いが筆者を成長させ、視野を広げる契機となった。筆者にとっては「英語」であったが、自分自身を信頼し、未知との遭遇を歓迎して挑戦を続けていくことは、大学生活の意義のひとつと考える。

2022年12月20日 3年メンバーで@2302 講義室



2023年2月18日 ゼミ合宿「卒業研究の進め方:先輩からのメッセージ」@勝浦コテージ



福井英次郎ゼミ

専門領域研究講座

3年 竹口 温大

福井ゼミでは国際関係の政治や経済について学びます。前期は主に現代社会のさまざまな分野において重要なワードを学び、知識の土台を作ります。後期は具体的な国際情勢や歴史、思想、現代社会の課題などを学び、その日の授業で扱ったテーマの中から先生が話題をピックアップし、その話題について学生間で議論を行います。また、自身が興味のある国際関係の物事に関する新書を読み、その内容についての発表をします。一年を通して常に文章を読み、書きまとめ、意見を交わすということをするので、頭を使う機会はそれなりに多いですが、努力した分だけ自分の役に立つはずです。まして自分が興味のある分野を勉強したくてゼミを選択するのであれば、なんら苦ではないと思います。本人にやる気があれば先生もそれに応じてくださるので、自分の興味をとことん追求したい人などは是非福井ゼミにいらしてください。

3年 齊藤 桃葉

福井ゼミでは、主に教科書を使って章ごとに内容をまとめて発表をしたり、『日経キーワード』を使用して国際政治や経済について学んだりしています。福井ゼミでは、政治や国際関係などの知識がなくても一から丁寧に学ぶことができるだけでなく、文章を書く力を身につけることができます。学期末には、自分でテーマを決めて調べたことを発表します。他の人の発表を聞くことで自分の知識の幅を広げることができます。まとめ方や文の書き方がわからなくても、先生に相談したらアドバイスをくださるので、課題も進めやすく、フィードバックも貰えるので、次に書くときの参考にもできます。学習する時はきちんとしますが、柔らかい雰囲気、誕生日の人がいたらサプライズでお祝いをしたりもしています。メリハリがあるため、適度に楽しく学習したい方におすすめです。

3年 杉ノ内 優雅

福井ゼミでは、主に政治学について学んでいます。政治学とは、政治理論、政治思想史、政治史、公共政策、国際政治などについて総合的に研究する学問です。授業では『入門政治学 365 日』を用いて、自由や平等、権力などについて学び、ゼミ生とその議論を行います。進め方は、各章ごとに担当者を決め、要約したレジュメを作成し、授業内で発表します。政治学の知識が身につくことに加えて、文書力を養うことができます。また、『日経キーワード』を用いて、授業の最初に小テストを行います。『日経キーワード』から学んだ内容は、実際にニュースを見たり、新聞を読んだりする時にとても役立ちます。

3年 杉山 綾美

福井ゼミは国際情勢について幅広く学べるゼミです。教科書として『入門政治学 365 日』を用いて議論したり、『日経キーワード』を用いて知識の確認をしたりしています。また、新聞記事を読みながら、世界の諸問題を学んでいます。とっても楽しいです。ゼミ生は皆、とても仲がいいので和気藹々と議論しています。議論中にわからないことがあっても、先生がとてもわかりやすく教えてくれるので国際情勢についての理解が深まります。国際情勢について幅広くわかりやすく学びたい方におすすめです。

3年 山崎 浩介

福井ゼミでは、国際政治や国際情勢について幅広く学べます。『入門政治学 365 日』を使って国際政治の知識や歴史、課題について学び、各テーマの設問について議論します。学生自ら各テーマについてまとめるので、より理解を深めることができます。また『日経キーワード』を使って毎週確認テストを行います。覚えておくべき国内外の知識が身に付き、経済や社会の動きを知ることができます。新聞の記事を用いることもあるので、より現在の国際情勢について学べます。現在の国際情勢の理解を深めたい方におすすめです。



卒業研究

4年 松根 翔

福井ゼミの魅力は計画性です。4年生になると、就職活動に忙しく、卒業論文について考える時間がなくなってきます。しかし福井ゼミでは、3年生のころから計画的に取り組んでいるので、自分の研究テーマに余裕を持って取り組みます。

4年 棚橋 悦

このゼミでは、3年生で国際情勢や時事問題を扱いながら、経済キーワードの暗記や英語の短文暗記に取り組みました。後期からは卒業論文に向けた準備をし、発表しました。4年生では、ゼミ発表をして、先生からアドバイスをいただきながら、卒業論文を進めました。

4年 阿部 純奈

福井ゼミは、堅苦しくなくラフな雰囲気に参加できます。4年生ではそれぞれが好きなテーマを決めて論文を書きます。国際系と関連付けて論文を書くのですが、自分の興味のある事をテーマにできるので楽しく論文が書けます。

4年 石原 舞

私は今年から福井ゼミに入ったのですが、卒業論文に関して、自分が興味のある分野を扱うことができますし、福井先生は親身になって論文の相談にのってくれます。加えて、ゼミ生と意見を交換しながら計画的に論文を進めることできるなど、とても良いゼミだと感じました。

4年 植田 桃子

福井ゼミに入り、最初は卒業論文を作り上げるのに、本当に自分が2万字以上も書けるのかとても不安がありました。しかし資料集めや論文の書き方など、初歩的な事から準備をする時間が設けられています。授業では何度も卒業論文の経過を発表することで、第三者からの意見を取り入れることができます。効率よく卒業論文を執筆したい学生にとってやりやすいゼミだと思います。

4年 江口 ひなた

このゼミでは、計画的に卒業論文を進めることができます。毎回の授業では、学生の発表後に、先生と学生により活発な議論が展開されます。私はこのような質疑応答によって、卒業論文の質が向上すると考えているので、毎回の授業が勉強になっています。

4年 日下 翔太

福井ゼミの魅力は先生の人柄です。卒業論文には的確なフィードバックを下さったり、ハロウィンの日にはチョコレートを配ってくれたりします。質の高い卒論を書き、大学卒

業までに「人間」として一歩成長したい方は、福井ゼミに参加することをおすすめします。

4年 須藤 美月

卒業論文では、スターバックスの売り方の違いについて、日本とアメリカを比較して検討しています。ゼミでは、卒業論文を発表した後に、互いに意見を出し合い、よりよい論文にしようと努力しています。他のゼミ生からもらった意見をまとめ、内容の濃い論文にするために、日々試行錯誤を繰り返しています。

4年 橋爪 柚依

福井ゼミは、卒業論文を作成するゼミです。3年で、論文の基本的な構成やテーマの方向性を定めます。その際、発表やディスカッションを通して改善点や不足点を見直します。4年では、本格的に卒業論文を作成します。目次や構成などの大枠から徐々に本文に取り掛かります。4年でも、定期的な途中経過の発表、ディスカッションなど行うので、間違いを訂正しながら卒業論文を作成することができます。何よりこのゼミは、自分の好きなことを卒業論文のテーマにできるのが1番の魅力だと思います。

4年 安井 周

4年生は早くから卒論に向けてテーマを決め取り組んでいます。大学生活における最も大きな課題ですので不安な方も多いのではないのでしょうか。福井ゼミでは内容はもちろんのことタイトルから参考文献まで細かいところも配慮されているので、完成度の高い卒論を執筆できます。

4年 劉 博文

福井ゼミでは3年時に自分の興味のある分野を決め、4年生になるとそれについて卒業論文を執筆する。毎回の授業では、指定された人が自分の卒業論文の進捗状況を発表する。卒業論文はとても大事なものであり、先生は丁寧に指導して下さる。自分の興味のある分野について深く勉強できるのも魅力だと思う。



松井順子ゼミ

June-ko's Seminar - Class of 2024





**It has been a remarkable year!
You are all full of life and are
loving and beautiful. We still have
another wonderful year to go.
Looking forward to working with
every single one of you!!!**

Love, June-ko

Comments on the seminar and advice for future students

Love you, everyone! Always makes me happy. 勉強頑張って下さい。You can do it! このゼミは、日本語から英語に翻訳することを主に行っています。We should join! Enjoying it!!

Do your best! 来な!! Fun!! Enjoy, everyone!



June-ko's Seminar - Class of 2023



**It has been a wonderful year!
You are all outstanding
students, and will be successful
at everything you do in the
future! Wishing you every
blessing and joy at every turn in
your life!!! Love, June-ko**





Comments on the seminar and advice for future students

ISHII KIRI: Do you best. **KANESAWA AYANE:** Interpreting was difficult, but thanks to everyone, it was fun! **SUDO TAKAYA:** Good luck! **SEKOZAWA YUITO:** Although the interpreting was difficult, I was able to meet good friends through the seminar. **TAMURA SAKI:** Interpreting was difficult, but it was fun! Our teacher is very kind! ♡ **YANG CHEN:** I was really lucky to join this seminar. Wishing everyone has a better future. (^^) **YOSHINO YUKI:** I would like to express my gratitude to you from the bottom of my heart!! **LIU XIAOTING:** Great to meet everyone. I hope everyone is lucky and has a nice life!! **R.P.P.MADHURANGA KUMARA:** Time passes quickly, so don't miss even one second in your life. Enjoy life. Good luck. **TRAN THANH THUY:** Thanks to the English from recent articles, I have been able to gain more life knowledge and vocabulary in different fields. In this class, I practiced taking notes and synthesizing what I heard, then interpreted it in the most understandable way for the other party.
(In order of student ID number 学籍番号順)

妻鹿裕子ゼミ

専門領域研究講座

3年 稲継 悠希

妻鹿ゼミでは、ゼミ生全員で協力して一つの英文学作品を読み解いていきます。まずは自分たちの力で作品を理解し、その後で先生が答え合わせの様な形で英語表現や時代背景などを説明してくれるため、英語力に自信がない人でも楽しく取り組む事が出来ます。

私は幼い頃に絵本を読んでもらっていたおかげで、自然に文学に興味を持つようになりました。最初に自分一人で読んだ作品は、ジュール・ヴェルヌの『海底二万マイル』でした。それまで海は怖いものだと思っていて苦手意識がありましたが、この作品を読んだことでその意識は変わり、深海など自分の知らない世界に興味を持つようになりました。まるで別世界に迷い込んだかのような不思議な感覚でした。その時に読んだのは小学生向けの簡略版だったので、いつかきちんとこの作品を読んでみたいと思っていました。

明海大学に入学後、一・二年生の頃は英語を中心に学んでいましたが、三年生になる前にゼミを選ぶことになり、文学を学びたいと思い、このゼミに入りました。先生はジェイムズ・ジョイスというアイルランド人作家を中心に、モダニズムや二十世紀文学、アイルランド系アメリカ人についても研究していらっしゃいます。

ヴェルヌはフランスの作家ですが、『八十日間世界一周』は英語圏でも人気があり、実際に八十日間で地球を一周することができるかどうかを試したネリー・ブライというジャーナリストもいたそうです。二十世紀の文学は、さまざまな国の文学が互いに刺激し合っていて興味深いです。

これまでグローバル・スタディーズ専攻の授業で政治や経済について学んできましたが、どこか他人事のような感じがして、表面的な理解に留まっていたように思います。しかし、小説の中の登場人物の気持ちになって物語を読み進めると、その背景にある歴史や文化が理解できるようになり、これまで学んできたことも自分事として捉えられるようになりました。文学作品は虚構の世界を描いたものですが、その中に現実の人々の考え方や価値観が入っています。小説からグローバルな世界を見るのも面白いと思います。

3年 小野寺 翼

私は以前からアーネスト・ヘミングウェイの『老人と海』を英語で読んでみたいと思っていましたが、大学の授業でも原書で小説を読む機会がなく、また一人で読むには難しすぎて、そのままになっていました。だから、三年生のゼミを決める際、イギリス・アイルランド文学について学ぶ妻鹿ゼミを選びました。

このゼミに入り、初めて英語で文学作品を読みました。今年度ゼミで読んだ作品は、ジ

エイムズ・ジョイスの「姉妹」と「イヴリン」、アーネスト・ヘミングウェイの「清潔で明るい場所」、サマセット・モームの「ランチョン」です。どの作品もよく読まれる短編小説だそうですが、私には難しく感じられました。

当時の情景を思い浮かべながら話を読み進めていくこと、宗教的な話を理解すること、英語を直訳するのではなく、登場人物の気持ちをくみ取って英語を訳すこと。こういったことを考えながら話の筋を理解するのは初めてで、とても難しかったです。

そこで、ゼミのみんなが各々どのように解釈したのかを発表し合うことにしました。すると、同じ作品を読んでいるはずなのに、みんな解釈の仕方が違っていました。なぜそう思ったのか、どのように訳したのかを話し合っていくうちに、原書で作品を読むことの楽しさを知ることができました。最初は難しく感じていましたが、英語で作品を読むことに慣れてくると情景が想像しやすくなりました。宗教や移民など作品を読む上で必要な歴史的・文化的な背景は、関連する映画を観ることで理解を深めました。

この一年で小説を原文で読むことへの抵抗が少なくなった私は、前から読みたかった『老人と海』を読んでみようと考えています。そしてヘミングウェイを卒業論文のテーマにする予定です。三年生のゼミではみんなで同じ作品を読みましたが、四年生はそれぞれが自分の興味に応じて作品・作家を選び、一人で作品を読むことになります。『老人と海』は中編小説なので読むのが大変ですが、四年間の大学生活の集大成としてチャレンジしたいと思っています。



横溝祐介ゼミ

専門領域研究講座

4年 山高 満己

「人として何が必要か・何を考えるべきか」がわかるゼミだと思います。様々な分野にも対応しており、先生はいろんな経験談を共有してくれます。個別の相談も気軽にできる人柄で、私達に寄り添ってくれます。成長を感じ、自分で考え抜く力をつけることができるゼミでした。

3年 坪 凌平

私が惹かれたのは森毅の「大学サボり道」でした。「サボる」と聞けばあまり良いイメージを持ちませんが、私は「メリハリをつける」というふうに感じました。やる時はやる、無理はしすぎない。これは人生を生きる上で大切です。常に全力で走り続けるのは大変なので。

3年 安藤 宝成

主に文学作品を取り扱い、時には映画を観たりもします。その中で私たちは本や映像の中で感じた考えや価値観、作者はどのようなことを視聴者に伝えたいかを考え、仲間と共有します。そして自分では気づくことのできなかつた考えを養うことを学びました。

3年 今嶋 翼

物事を多面的に捉える力を培うことが出来ました。「オスカー・ワイルド」、「ルイス・キャロル」といった作家についてプレゼンテーションをすることによりゼミ内の仲間と交流を深めることが出来、文学についての理解を深めることが出来ました。

3年 吉楽 明莉

自分達自身でヨーロッパの本を読みながら、その意味を汲み取っていきます。個々が感じた事を正直に書いたり、発言しやすい雰囲気があります。自分に向き合う事もできるし、新しい見方を知る事ができます。

3年 向後 大輝

文学を中心に様々なことを学んでいます。発表の授業ではただ調べて発表するだけではなく、聞き手が疑問に思うことが無いような工夫や大雑把ではなく一つのことについて深く探究することの重要性を知り、本を読み物事の認識の仕方を今までより変えることができました。

3年 幸壬 拓哉

想像力を養うゼミだと私は考えています。物語をたくさん読んでさまざまな角度から物事を捉える能力をこの1年間で養うことができました。何か暗闇や壁が立ちはだかった時には一歩引いて自分の持っている想像力を使い、物事を捉えることが解決への近道だと思います。

3年 小林 愛

芸術や心理などについて研究します。例えば、不思議の国のアリスを深読みして、作者の意図を考え、グループでパワーポイントなどを使いながら発表をします。他には、エッセイや文章を読んで、気づいたことを紙にまとめたり、自分でエッセイを作ってみたりします。

3年 小森 公佑

文学に限らず多くの作品から学びを得ることができました。ひとつの物を扱うにしても、色々な視点から物事を考えて自分なりに解釈したり、他の人の意見を聞いて刺激を受けたりしました。そこから常に思考することの大切さも同時に知ることができました。

3年 坂上 盡

物語や芸術などの作品を扱います。映画や評論、小説などに触れて作品を読み解き様々な視点から物語に隠された意味や本質を考えます。自分にはない視点や認識が一変するような体験ができます。

3年 鈴木 佑奈

物語や論文などを扱います。映画を観たり、本を読んだりして様々な角度からの考え方や感じ方を知ることができました。1つの目線からだけでなくいろんな目線から見ることを学びました。

3年 田畑 涼華

作品に対峙するとき、様々な目線を持つことが大切だと学びました。詩や抽象的に作品など、見方を変えてみないと普段は気が付かない様なテーマに対して、深く熟考することで、自分で考える力が成長していると感じるようになりました。

3年 乗松 理沙

文章を読み考察するだけでなく、時には「青春」という言葉について考えたり、『となりのトトロ』を鑑賞したりしました。ひとつの物事を深く掘り下げて考えることで、新しい視点で物事に向き合ったり視野を広げられたりしました。

卒業研究

「自分だけの研究」という意識を持って、卒業論文を書きます。阿部絵梨華、大栗凜太、木下翠紗、鈴木陸、藤平希心、山畑りこ、渡部優樹、山高満己の8名の4年生が研究に取り組みました。彼らの卒業論文の内容やリサーチ・クエスチョンを以下にご紹介します。

- 『ロドピスの靴』『グリム童話』『シャルル・ペロー版』『シンデレラ』（ディズニー映画）における援助者の比較（阿部絵梨華）
- 『クリスマス・キャロル』にみる19世紀のクリスマス文化（大栗凜太）
- 「オフィーリア」臨終描写における文学と絵画間の違い（鈴木陸）
- なぜサロメは「ファム・ファタル(運命の女)」なのか（木下翠紗）
- 「シャロットの女」を題材としたウォーターハウスの三連画に関する考察（渡部優樹）
- 『高慢と偏見』にみる結婚観（藤平希心）
- 「ミュシャ」が日本の少女漫画に与えた影響—60年代から70年代における変貌
(山畑りこ)
- ミュージカル『レ・ミゼラブル』楽曲の英語歌詞と日本語歌詞間の相違に関する考察
(山高満己)

学生からのコメント

4年 大栗 凜太

横溝ゼミでは主に文学について学ぶことができます。文学とは小説や絵画を基に当時の文化を学び、考察をすることです。私はこのゼミで19世紀の文豪チャールズ・ディケンズの中編小説『クリスマス・キャロル』についての研究を行いました。この小説から得た学びは、19世紀のイギリスの人々の暮らしぶりやディケンズが彼の作品の読者に訴えかけたかったこと、そしてこの小説『クリスマス・キャロル』という作品が当時の人々の生活にどのような影響を与えたのかということです。普通の授業では得られないような学びを、この授業では得ることができます。本を読むことや、歴史や文化に興味のある方はぜひ横溝ゼミを受講してみたいかがでしょうか？

4年 木下 翠紗

私はオスカー・ワイルドの『戯曲サロメ』に興味があり、19世紀ヨーロッパ芸術の代表的なテーマの一つである、ファム・ファタル（運命の女）について研究を行いました。19世紀、数多くいるミューズの中でも「サロメ」という女性に焦点を当て、旧約聖書などにも言及のあるこの女性が、19世紀という舞台において、ファム・ファタルという象徴を背負うこととなった経緯について考察しました。一般に「サロメ」を題材にした作品は絵画から文学、音楽に至るまで様々ありますが、オスカー・ワイルドの『サロメ』はサロメ像

の転機であると感じ、時代背景や『サロメ』を書く上でワイルドが影響を受けた作品や元となる伝承などと比較し、ワイルドがサロメ像に与えた影響についての探究を行いました。

4年 鈴木 陸

私の卒論テーマは「文学作品『ハムレット』と絵画『オフィーリア』間のオフィーリア臨終時の自然描写の比較」です。このテーマを選んだ理由として、ゼミの講義にてミレイが描いた『オフィーリア』という絵画作品を初めて観たときに、とても衝撃を受けたということが大きいです。卒業研究を通じて作品のことをさらに知りたいと思い、それが一番の動機になりました。シェイクスピアが描いた『ハムレット』という作品が基になっていることから、後に生まれた絵画との、描写の共通点や相違点なども見つけることができました。

4年 藤平 希心

横溝ゼミは学生一人一人の個性を尊重し、卒業論文の執筆時だけでなく就活や私生活の悩み事まで幅広く相談にのってくれました。何かにつまずいたりしても寄り添って共に歩んでくれる横溝先生には感謝しています。学生と先生の垣根を超え、一人の人間として接してくれたことで他のゼミでは得ることのできない価値観や、人としてどうあるべきかを学ぶことができました。横溝先生だからこそ卒業研究も諦めずに頑張ることができたと思います。ありがとうございました！

4年 渡部 優樹

私はジョン・ウィリアム・ウォーターハウスの1888年に描かれた『シャロットの女』が何故、同テーマを描いた2作品より評価を得ているのかについて研究しました。一般に、ウォーターハウスの作品は魅力的な作品が多く、『シャロットの女』以外にも「世界の怖い絵展」にも出品されている作品があり、私の興味を掻き立てるものばかりでした。この研究の動機は、数々の作品があるにもかかわらず、ウォーターハウスと検索すると1888年に描かれた『シャロットの女』が検索結果の大半を占めていることに疑問を感じたことです。そのように評価される要因を見つけようと思い、このテーマにしました。今では自分だけの研究ができ、自分だけの学びを経験できたと感じています。

担当教員から横溝ゼミの8名の4年生へ。

皆さんには、素晴らしい才能があります。各々の研究にアドバイスをする中で、私はその才能に触れられることに大きな喜びを感じていました。たくさんのトラブルも経験しましたね。学業や就職活動、研究を並行して行うことは大変だったと思います。この1年に、君たちの人生の支えになるような学びがあったと信じ、今後の活躍に期待しています。

金子義隆ゼミ

専門領域講座

3年 内山 瑞貴

First, I ask you some questions. Why do you study English? What is your motivation for studying English? For job hunting? For fun to study it? In our seminar, we learn about student's motivation for English study. It is related to psychology. You give a presentation which you learned from a textbook. Then, Professor Yoshitaka Kaneko, gives effective feedback to us. He is kind, so we can make a presentation confidently. In addition, we discuss a theme from our experience and knowledge. For example, we talk about "What can teachers do for the students who will learn English for the first time in junior high school?" Therefore, I could improve my presentation and critical thinking skills. Furthermore, I like the time when we talk about the experiences which each of us has taken English class because I am able to find various lesson types to make students like English. However, our seminar has only two members. I often feel sad when we talk in the seminar, so I want you to come our seminar! I want to share many ideas!

Well, let's change the topic now. I would like to tell you exciting things. We do not only study, but also have fun sometimes. For example, we held a Christmas party on the last seminar day in 2022. In this party, not only we but also other students joined. We enjoyed eating delicious pastries and snacks. We had a good time talking about our school life and our private lives. Are you interested in our seminar? Do you want to know more information about our seminar? Do you want to join our seminar? If your answer is "Yes", please come to us. Of course, you are welcome. Finally, I am really sorry to inform you that this seminar is available for only the students who are in teacher training course.

3年 山崎 美波

2022年度、金子ゼミは金子先生、内山さん、山崎の三人で活動を行っています。主な活動内容は「生徒に対する、英語学習における動機づけ」について様々な既存の研究結果などを用いて理解し、それを自分たちの言葉でかみ砕いて発表するといったものになっています。その内容の中で動機づけに対して全く知識がなかった私が一番印象に残っているのは、“内発的動機”と“外発的動機”というものです。そもそも、動機づけが二種類あるということすら知らない状態でした。“内発的動機づけ”を簡潔に説明すると「学習者が自ら学び、習得する意義を見つけ出し動機づけにつながる」というものです。この内発的動機づけはいわば学習者自身の「自信」から成るものです。反対に“外発的動機づけ”とは学習することで何か（単位、昇給などの報酬）を得られることを理由に学習することに意義を見つけ動機づけにつながる」というものです。この外発的動機づけの例として「怒られたくない」というもから「習得して将来グローバルな人材として活躍したい」などがあります。この外発的動機づけは目的が達成されてしまうと、動機がなくなってしまうという恐れがあります。そのため、学習者に内発的動機をもってもらうことがより理想だが難しいと分かってきました。そこから自分自身が学習者に対し施すべき指導方法が明確になり始めました。



卒業研究



4年 七海 悠貴

この場所は僕にとって第2の家みたいなところですよ。みんな仲がよく笑いもありながら楽しく学んでいます。SDGsについてみんなで話し合っただけで思慮深い話し合いもできたりと、メリハリがしっかりできるゼミです。

そして何より、ゼミの先生が優しいというのが理由の一つです。1人1人の事を考え寄り添ってくれますし、とにかく明るいので楽しみながら学んでいます。だからこのゼミは大学の家のようなそんな場所だと思います。

4年 吉谷 皓介

私は金子ゼミに所属して分かったことがある。金子先生自体が高校の教員を歴任した経験があるので、授業自体に分らなくなるようなことが少ないことだ。またわからなくても先生に聞ける環境が他のゼミ以上にあるのではないかと思う。私はこのゼミで、就活の相談などもして、私自身成長できているという自信があります。

4年 遠藤 優歩

4年生になって金子先生のゼミに移動してきたのですが、1年間だけでも多くのことを学ぶことができました。SDGsのことを全く知らなかったのですが、思っていたよりも身近なものであり、いろんな視点から考えるきっかけになり、興味を持つことができました。ゼミメンバーも楽しく、授業も楽しく、とても有意義で充実した1年間でした。就職活動においても、親身になって話を聞いてくださる金子先生のゼミを選んで本当によかったです。

4年 山村 智恵美

先生やほかの仲間たちからアドバイスを受けながら研究をして発表をしています。クラスの雰囲気はとても温厚でみんなが発言をしながら楽しく授業を進めています。夏には勝浦の別荘に遊びに行き先生や仲間と楽しい時間を過ごせました。先生や仲間もとても素敵なゼミです。

4年 松井 建人

ゼミでは高校英語の教科書やSDGsの活動をしている企業について今まで学習してきたことと違った視点から分析などを進めることで楽しいです。金子先生に一から細かく丁寧にアドバイスをいただくためとても良い環境で学習ができたと感じます。教科書分析で

は高校生の頃に使用していた教科書から自分の選んだ単元を分析し、当時学習していたことよりさらに深く学習ができて、新たな発見が多数見つかりました。

4年 西井 蓮

SDGsについて課題を一人一つ取り上げ発表し、仲間が調べたことも詳しく知れるきっかけを与えてくれた。先生も含めわからない事はすぐ相談でき、話し合うことができるいいゼミだと思う。

4年 小川 正人

ゼミでは、社会的な話題について自分の意見を理由と一緒に述べ合いながら、一人一人がしっかり発表できるように進めていくので深く考える力が身に着きました。英語力と同時にクリティカル・シンキング力も身に着くのでとても有意義に過ごすことができました。

4年 秋葉 龍之介

ゼミは主に前期に SDGs について考え、企業がどのような取り組みをしているかゼミ内で発表しました。また、高等学校英語の教科書を使い、著者がどのような意図をもってこのテーマを教科書に選んだのかを考え、自分の考えをまとめました。

4年 金子 颯太

企業が SDGs 達成に向けてどのような取り組みを行なっているかについて調査して発表し、高校の英語の教科書を学生側の視点ではなく編集者の視点で分析し、なぜそれぞれの単元が教科書に掲載されているか、何を伝えたいのか、SDGs に関連はあるかについて調査、発表を行い、後期は卒業論文に取り組んでいます。

4年 佐藤 大哉

それぞれ好きな SDGs のテーマを選び調べて発表して、意外と身近なものだと実感することができます。好きなテーマについてインプットし、アウトプットをする機会も授業内で与えてくださるので、自然と SDGs についての知識がついており、今後の就職活動や人生にも役立てることができます。

4年 成田 藍蘭

主に SDGs について自分の意見だけでなく他の人の意見を取り入れ新たな発見に繋げることが多いため自分では思いつかなかった事や、違う角度からの意見を聞くことが出来てとても楽しかった。ゼミの雰囲気も和気藹々としていてこのゼミに入って良かったと心から感じた。

4年 吉田 遥輝

今まで特に気にしていなかった世界の問題や興味のある SDGs の内容について各々調べあげてゼミ内では発表しました。三年と四年を通して SDGs に触れ、世界の問題に向き合う機会をこのゼミで得られたのがよかったです。

高野敬三ゼミ

専門領域研究講座



3年 磯野 奨

高野ゼミは戦後から現在までの英語教育を振り返り、その時代の教育の在り方や歴史について、これから日本はどのような教育を行わなければいけないのか、それについてどのように思ったのかを考え、学びを深めるゼミです。また、高野先生の面白い話やタメになる話もよく話してくださるので、すごく楽しいゼミです。教職履修者はもちろん、教育に少しでも興味のある方はとても有意義な時間を過ごすことができると思います。

3年 坂脇 海翔

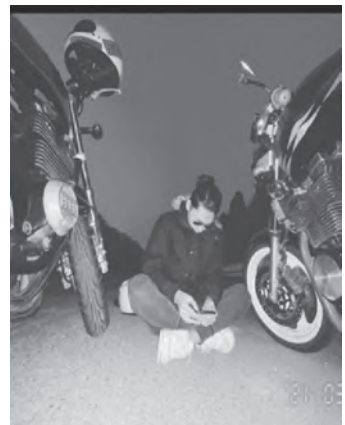
私が所属している高野敬三先生のゼミは過去から現代までの英語の変遷を学べるゼミです。平泉渉・渡部昇一『英語教育大論争』を読み込みながら、海外との英語の交わりや日本国内での英語の普及や発達の仕方など、内容には少々難しい所もありますが、理解できるととても楽しく取り組めるゼミです。また、英字新聞を読んで語学力を高めることもできます。英字新聞は毎週読むため、自然と単語の記憶力や読解力も身に付きます。先生は一見怖そうですが、蓋を開けてみるととてもにこやかで面白い先生です。皆さんもぜひ、高野ゼミを考えてみてください。

3年 高橋 昂瑛

高野ゼミは、英語教育の歴史について学ぶゼミです。英語教育大論争や戦後から現在までの英語教育の変遷を見ていき、その時代の英語教育のあり方などを学びました。教職課程を履修していない人にとっても興味深い内容となっています。授業内容以外のお話でもいろいろな情報を知ることができます。また、高野先生にはゼミ外でも学校に関する相談にのっていただけるので、とてもおすすめのゼミです。皆さんもぜひお越しください。

3年 佐久間 龍紀

高野先生のゼミでは英語教育について学びます。戦後から現在までの英語教育の在り方や歴史について、英語教育大論争という教材を用いて、時代ごとの教育の在り方などを学びます。先生は教職課程の先生でありながら、教職課程を履修していなくてもゼミに入ることができ、教育に興味のある方にはとても有意義な時間を過ごせる内容になっていると思います。先生のゼミでは生徒と先生の距離が近く、タメになる話が沢山聞けるので、少しでも英語教育について興味のある方や楽しく学びたい方は、ぜひ履修してみてください。





4年 遠藤 正隆

私は本を読み様々な考え方や知識に触れるのが好きで、このゼミに入ることを希望しました。高野ゼミでは、「日本における英語教育の変遷とその後」について、様々な資料を基に研究しています。資料がやや難しいため、ゼミの中で一緒に読み解いていき、各自プレゼンテーションを用意して発表し合います。またこのゼミでは、新聞の時事英語も読むので実用的な英語が身に付きます。教職課程を履修している方はもちろん、日本における英語教育の歴史について興味のある方におすすめです。

4年 渡部 龍生

高野ゼミでは戦後から現在までの英語教育を振り返り、これからの英語教育について考え、英語教育大論争や昭和から平成の学習指導要領の変遷をみていき、その時代の教育の在り方などを学んでいます。また、日本の外国語教育に何が足りないのか、資料を元に議論し、外国語教育だけでなく、英語に関しての歴史や知識をより深く学ぶことができます。そして授業では英和新聞を読むので、英語学習継続と共に、英語を使い続けることもでき、今までやってきたことを無駄にすることが一切ないゼミです。

4年 福井谷 優輔

高野ゼミでは英語教育について学びます。主に、第二次世界大戦以降から現在までの英語教育にフォーカスを当てて学習していきます。講義内では、配布された資料を輪読してパワーポイントにまとめて発表するスタイルになっています。各々まとめかたが異なるため、ゼミ生の発表を聞くことで自分とは違った視点で理解を深めることができます。また、高野ゼミでは学習指導要領を1から学ぶことができ、教職課程を履修していない生徒も履

修することができます。

4年 本望 伊織

高野先生のゼミでは主に英語教育について学びます。一見、難そうかなと思う人もいるかもしれませんが。ですが自分達が今まで何も考えずに学んできた英語教育について『英語教育大論争』や教材を読み、これからどのようにして教育をしていかななくては行けないかを考え、深めることができます。僕は教職履修者ではないのですが、高野先生からは就職活動、人生など多くのアドバイスを頂けています。もちろん教職履修者にはとてもオススメです！是非興味のある方は高野先生ゼミへお願いします！



百瀬美帆ゼミ

専門領域研究講座

百瀬ゼミでは、

3年 上原 二葉

百瀬先生の現場での経験や技術などを教わりながら、児童生徒と現在の学習指導要領に合わせて実践的に授業設計をしています。「主体的、対話的な深い学び」について、ゼミ生が深く議論しています。英語を教えることの面白さ、難しさだけでなく、教師の魅力も感じられるゼミです。

3年 桑原 百蘭

英語の授業での生徒のひきつけ方や、ICT を活用した授業方法を学んでいます。イベントには積極的に関わる明るいゼミです！皆と共に同じ目標に向かうことが、『チーム百瀬ゼミ』で高め合うことに繋がっていると感じています。

3年 向後 志穂

教職履修生が教員になるための学びを深める活動をしています。大学1年生から共に学んできたメンバーなので居心地が良く、大変なことも多いですが、みんなで同じ目標に向かい頑張っています！

3年 児島 晴香

将来英語の教師を目指す仲間と共に、教育に関する深い学びを通じて大学生活を充実させることができます。また、英語教育のプロフェッショナルである百瀬先生が指導をしてくださることがとても心強いです！

3年 小林 優汰

模擬授業などを通じた自主的な産出活動を通して、私たち学生自身が意見を出し合いながら教育について考えています。自分だけの視点だけでない他者の異なる視点から考える授業展開など、より深い内容を体験的に学習して、教員を目指して活動することができます。他者からのフィードバックにより自分自身への還元も多いゼミです。

3年 佐久間 陸人

学生が実際の授業を想定して模擬授業を行う授業スタイルのため、とても実践的です。そのおかげで、教育実習で授業をすることへの不安を少し和らげることができました。また、ゼミの仲間で切磋琢磨しながら日々教員になるためのスキルを身につけることができるゼミだと思います！

3年 保足 晟吾

教師を目指す人がメインの活動をしています。教師になる上で大切な知識や心構えを学ぶことはもちろん、クリスマスパーティーなどさまざまなイベントがあります。教師を目指

している人におすすめのゼミです。

3年 佐藤 有志

主に模擬授業の実施とその評価を行っています。ゼミ生を中学生や高校生に見立て、50分の模擬授業を行います。指導案や教材のパワーポイント作成など、かなり本格的に授業を作っていくので大変だと思いますが、授業後の百瀬先生やゼミ生からのコメントはモチベーションアップに繋がっています！

3年 志垣 悠馬

1,2年生の頃から同じ授業を受けている教職仲間がいるため、みんな仲が良く楽しいゼミです。模擬授業をしてお互いにアドバイスし合っってそこから新たなアイデアが生まれたりすることから、教師になるためや4年で教育実習に行くための準備やレベルアップができると思います。

3年 直井 乃々美

教職の理解を深めるだけでなく、実際に模擬授業を行なってゼミ生のみんなが意見を伝えることで互いを高め合っています。百瀬先生からのコメントだけでなく、教師を目指すゼミ生からの意見は自分自身に力を与えてくれます。常にゼミ生を思ってくれる百瀬先生と、互いに切磋琢磨できる学生がいる素敵なゼミです。

3年 前田 花奈

学習指導要領に基づいた英語教育についての内容を沢山学ぶことができます。グループで新しい英語教育についてのプレゼンを行ったり、個人で実際に模擬授業を行ったりしています。私はゼミの仲間たちと協力し課題を解決したり、先生のアドバイスを活かしたりして、より良い授業作りを学ぶことができました。

3年 八代 涼花

全員が教職履修生で教員を目指しています。ゼミを通して、教職課程の授業プラスαを学ぶことができましたし、お互いの模擬授業の良かったところや改善案などを指摘し合い、回数をこなす度に学びが増えていきました。ゼミ生同士も仲が良く、明るく楽しい雰囲気成長していけるゼミです！

3年 吉田 未来

教員としてのスキルを身に付けられるようなグループ学習や ZOOM での特別講習に加え、模擬授業を行いました。模擬授業ではお互いに評価やアドバイスをし合っって、授業改善のためにできることを自分たちで考えたり、先生から教えていただいたりすることができました。とても明るく、向上心にあふれた学生ばかりです。

[ゼミ担当者より]

明るく活気にあふれた学生ばかりです。模擬授業や学生相互のフィードバックの質が高く、すぐにでも学校現場に送り出したいと感じるほどです。(百瀬美帆)

卒業研究

4年 池上 温哉

百瀬ゼミでは教職課程を履修している学生が所属しています。1年生から共に授業を受けてきたので仲が良いです。このゼミでは授業の動画について意見を言い合い、それを踏まえて模擬授業をします。授業を重ねることで英語授業の理解が深まり、仲間から新しい意見や気づきがあり深い学びだと感じます。

4年 及川 龍之介

私は4年生から百瀬先生のゼミに所属しています。ゼミを変更する際に百瀬先生とゼミ生のみなさんが温かく迎えてくださいました。ゼミの授業では教職について学ぶだけではなく、教育実習や教員採用試験について個別に指導していただきました。ここで学んだことを私自身の将来に活かせるように努力し続けます！

4年 加藤 天真

ゼミ生はそれぞれ教職や英語教育の内容について卒業研究を行います。ゼミ生同士で意見交換したりしながら主体的な学習をすることができます。また、教育の本質をつくアドバイス等を頂けるので、日々成長を強く感じています。クリスマスパーティーや合宿を催してくださるので、学生や先生との交流を深めることもできます。

4年 佐藤 向日葵

百瀬ゼミの特徴は、みんなが教師を目指している点にあります。日常の話題等を題材にした導入の仕方や、生徒の考えを引き出す発問の仕方、ワークシートの作成方法などを講義形式ではなく、学生同士のディスカッションで見出していきます。その中から生まれた新しいアイデアを模擬授業などで活用できました。互いのフィードバックにより、みんな成長できるゼミです！

4年 佐保 翼

百瀬ゼミでは「学習指導要領を具現化する授業」とは何か議論し実践しています。また、教育実習や教育に関わることでわからないことや改善点があれば百瀬先生が手厚くサポートをしてくれます。百瀬先生のおかげで教育実習や小学校ボランティアをやりきれたので日々感謝の気持ちでいっぱいです。

4年 関野 玲佳

このゼミは、教員を目指す方にぴったりのゼミです。例えば、採用試験前は英語の苦手な部分を中心に指導を下さったり、それ以外の期間にもちょっとした模擬授業などの時間を設けてくださったりします。先生の教員としての経験談などもたくさん聞くことができるとても為になります。採用試験を受ける予定の方にオススメです。

4年 高橋 陽人

この2年間、中学校・高等学校で指導する際に必要な知識や授業展開の方法について学びました。中学で教育実習を行った際に、このゼミで学んだことを活かすことが出来たので良かったです。ヨット部の活動で参加できない日もありましたがこの2年間楽しい仲間と学べて良い思い出が出来ました。

4年 横田 裕哉

全員が教職課程を履修しています。教職に関することを研究します。先生はいつも私たちに気を付けてくださいます。先生と学生、学生同士の距離が近く、とても雰囲気が良いです。一人で活動することは殆どなく、みんなで進捗状況を共有や、意見交換をおこなっています。一緒に活動するので助かっています。たくさんの新たな発見や気づきが得られます。

[ゼミ担当者より]

3年次には全員が教職に従事することを希望していましたが、最終的には3名が教職以外の道を選びました。その選択は熟慮と経験を経た結果であると、私は高く評価しています。全員が、英語教育について語り合いながら世界に視野を広げ、心身ともに大きく成長できた2年間でした。それぞれの道での成功を信じてこれからも応援していきます。(百瀬美帆)

2022年百瀬ゼミ

4年生



3年生



卒業研究題目一覧

小林裕子ゼミ（提出順）

1	椎名 怜央	AI 介入社会と非介入社会 —人類や環境に AI がもたらす様々な影響—
2	木村 瑞紀	海洋ゴミの現状と捨てない環境作り —2050 年問題の対策と 吸い殻ひとつない美しい環境のためにすべきこと—
3	蔵本 夏希	環境問題とアパレル業界 —新しいファストファッションのあり方—
4	小室 美遥	気候変動に向けて地方自治体が果たすべき役割 —持続可能な社会の実現に向けて—
5	嶋口 晴斗	地球温暖化 —異常気象による影響—
6	高橋真莉亜	水質汚染と水俣病 —環境汚染の原因と今後の課題—
7	松田 礼央	人種差別問題の現状とこれから —差別問題がスポーツ界に及ぼす影響—
8	坂本 陸	日本と諸外国との戦争の歴史 —戦争が日本に与えた影響について—
9	佐倉 眞子	電気自動車と地球 —環境問題に対する電気自動車の今後の動向—
10	大和 千宙	音楽の持つ文化性 —洋楽と邦楽の歌詞や思想の研究—
11	関口妃亜蘭	服飾業界における社会問題 —服飾文化変遷と企業の取り組み—
12	石川 康祐	ビットコインの利用における将来性 —実践者としての体験的考察—
13	川畑 慧士	日本の四季を取り戻す —地球温暖化を緩和するには—

【2022 年度は環境問題に多くの関心が集まりました。頑張りましたね(^0^)/小林裕子】

梅谷博之ゼミ

1	雨海 光希	横浜ピジンにおける母音の無声化について
2	池田 桜	セクシュアル・マイノリティに関する大学生の意識 —明海大学生に対して実施したアンケート調査の結果—
3	岩瀬 海輝	Creepy Nuts の歌詞におけるダブルミーニングの特性
4	佐藤 渚	歌詞における「無意味語」の解釈 —「ぐるりんぱぱりんぴりん ぴりりんぱぱりんぼりんぺろ」 「ぼよよんでふにゃんだらん だららんでくりんちょりんぺそ」—
5	田中 政彪	原恵一監督が作るクレヨンしんちゃん映画での三幕構成と類似点と 相違点 —3つの映画を比べて—

6	藤 一霖	中国語と日本語の形容詞による表現の差異
7	大和新之介	「専門用語」としてのゲーム用語に関する考察
8	山田雄太郎	航空管制英語の言語研究 ―日米を比較して―
9	渡邊 海斗	青森方言の擬音語に後続する助詞「テ」、「ト」に関する考察

川成美香ゼミ

1	松浦 健吾	色彩語を含むメタファー表現 ―黒・白・赤を対象に日本語と英語の比較研究―
2	桑原 未緒	女性司会者の会話スタイルの日米比較研究 ―Tannen の「熱中スタイル」「思いやりスタイル」の視点から―
3	松戸 千尋	日本人とアメリカ人の大学生の依頼表現の比較研究 ―ポライトネスの視点から―

河原伸一ゼミ

1	大田貴美子	日本における社会的弱者補助に関する考察
2	亀甲 由菜	ソーシャル・キャピタルを高めるための公園編成に関する考察
3	久保田彪太	日本の教育の次のステップへの提言
4	小島 梨乃	人間と動物の関係性に関する考察
5	澤田 知静	見た目の良さは幸せにつながるのか
6	椎名 大祐	ローカル線の存続と廃止に関する考察
7	新藤 世偉	核の存在が日本にもたらす影響に関する考察
8	長谷川優花	未婚化とマッチングアプリの活用に関する考察
9	向山麻里奈	不登校児への支援から見た日本の教育制度の課題に関する考察
10	弥村安津美	ワーク・エンゲイジメント ―看護師の使命感を中心に―

小谷哲男ゼミ

1	須崎 瑠光	ウクライナ軍事侵攻による文化的制裁の影響
2	鈴木 梨杏	アメリカの中絶問題は中間選挙にどのような影響を与えたのか
3	千野田優希	ウクライナ侵略における外交演説の役割
4	武藤 美優	日本の学力は本当に低下しているのか
5	重岡 メリアン明子	アジア系アメリカ人やアジア人に対する差別問題について
6	中村 有来	ファストファッションと環境問題

7	寺澤 夏那	ウクライナ侵攻による食料危機への対応策に関する課題
---	-------	---------------------------

嶋田珠巳ゼミ

1	加藤 梨央	新潟諸方言の特徴と方言意識
2	黒田 紗希	役割語から考えるキャラクターの{僕/ボク/ぼく}の使用について
3	小崎 杏夏	広島弁は怖い？ —標準語圏の若年層における広島弁の方言イメージ—
4	小林 悠太	ゲーム言葉の英語翻訳
5	古山 碧里	学習方法の違いによる英単語習得率の比較
6	佐藤 然	ポスター表現 —駅の言語景観と注意喚起ポスターを中心に—
7	鈴木 歩	日英コミュニケーションにおけるジェスチャーの差
8	染谷 清太	吃音の出やすい音の調査
9	吉田 安佑	ゴールデンカムイの方言使用と英語訳

辰己雄太ゼミ

1	猪熊 允人	海外と日本のジョークについて —映画を用いた比較調査—
2	岩立 佳子	日本語と韓国語におけるオノマトペ
3	加美 智風	映画『タイタニック』における英語の冠詞について
4	塩田 千遥	変わりゆく方言の認識と実態 —東北方言と福島方言に着目して—
5	南城 壱砂	日本語と英語のスラング

ケイコ・ナカムラゼミ

1	岩楯維央利	Invisible racism: Rooted racial discrimination in Japan
2	エンリケス カール	How to start a business from scratch and knowing strategies
3	大作すみれ	Body image
4	大城ヒロミ	How two cultures affect a bilingual's Code-Switching
5	大山 紗季	2.5 次元舞台 —2.5 次元舞台の歴史と 2.5 次元俳優—
6	川上 涼太	How “Metaverse” changes our life and the possibilities of “virtual”
7	君塚 翔伍	L2 language learning and oral corrective feedback: A comparative study of desired corrective feedback of teachers and students
8	椎葉 晴斗	An analysis of expressions for English writing
9	高橋 凜	Friendship type and strategy among contemporary college students

10	醍醐 弘祐	My life with music
11	塚田 結衣	Work up: Why did I draw “Grace and Nova”?
12	出口 夏詩	A comparison of the subcultures of Japan and the United States: Consideration of teamwork in manga, comics, and animation
13	バト エレデネ バトチュルン	Political psychology: Political change
14	森 夏海	The changing Japanese mask culture
15	森村 菜月	K-POP 業界の新たな課題 —ビジネスと環境問題—
16	米元 拓光	ラストパフォーマンス —ハウスダンス×ダブルダッチ—

【You did a wonderful job on your theses! I wish you the best of luck in the future! K. Nakamura】

林智昭ゼミ

1	岩垂 香菜	現代アメリカ英語におけるラテン式比較級の比較用法 —than を伴う superior を例に—
2	橋本ありさ	日本人の英語学習における音声的転移 —効果的な発音指導に向けて—
3	佐久間亮汰	How to enjoy the Department of English at Meikai University: An autoethnographic account

福井英次郎ゼミ

1	阿部 純奈	日本の美容整形がどのように受け入れられているか —「美容大国」韓国と比較して—
2	石原 舞	イラストレーションの均一化 —2D、3DCG の視点からみる日本と海外のイラストレーション—
3	植田 桃子	文化の盗用
4	江口ひなた	日本のマンガ・アニメの価値 —なぜ日本の作品が外国からも愛されているのか—
5	日下 翔太	日本の e スポーツ文化発展の為の海外 e スポーツ文化研究
6	須藤 美月	世界で人気のスターバックス
7	棚橋 悦	中国と日本におけるジェンダー格差の現状と課題
8	橋爪 柚依	ストリートダンスの起源と普及 —ブラックカルチャーとの歩み—
9	松根 翔	KDDI の DX×雇用戦略 —欧米発のジョブ型雇用の導入—

10	安井 周	ブレグジットとアイルランド —終わりの見えないアイルランド問題—
11	劉 博文	9・11 後のアメリカの中東戦争

松井順子ゼミ (In order of student ID number 学籍番号順)

	Presenter	Title	Interpreter
1	石井 希吏	What Determines Height (Stature)	TAKAYA SUDO
2	金澤 彩希	Ghosts	SAKI TAMURA
3	須藤 貴也	Familiar Chords and Melodies	KIRI ISHII
4	瀬古澤結人	Recognition of Football (Soccer)	PRAGEETH MADHURANGA KUMARA
5	田村 咲稀	Unidentified Mysterious Animals	YUKI YOSHINO
6	楊 晨	About Homosexuality	TRAN THANH THUY
7	吉野 優希	Ghosts	AYANE KANESAWA
8	リュウ ギョウテイ	The current state of operations at the Japanese sports shoes flea market application 'Snkr Dunk'	CHEN YANG
9	R.P.P. マドウランガ クマーラ	Current State of Affairs in the Aviation Industry	YUITO SEKOZAWA
10	チャン タントウイ	Eating Habits - Dietary Survey	XIAOTING LIU

【Many amazing presentations with valuable original data/Remarkable overall progress over the course of the seminar/Nicely prepared interpretations!／June-ko Matsui】

横溝祐介ゼミ

1	阿部絵梨華	シンデレラにおける援助者の描かれ方からみる女性像
2	大栗 凜太	『クリスマス・キャロル』の隠された魅力
3	木下 翠紗	『戯曲サロメ』におけるサロメはなぜファム・ファタールになったのか
4	鈴木 陸	文学作品『ハムレット』と絵画『オフィーリア』間のオフィーリア臨終時の自然描写の比較

5	藤平 希心	『高慢と偏見』における結婚観
6	山畑 りこ	ミュシャが少女漫画に与えた影響 —60年代と70年代の漫画を比較して—
7	渡部 優樹	なぜウォーターハウスの『シャロットの女』は代表作となったのか
8	山高 満己	ミュージカル『レ・ミゼラブル』における歌詞の日英対照からわかること

金子義隆ゼミ (学籍番号順)

1	松井 建人	日本の大麻の合法化
2	秋葉龍之介	自動車の排気ガスによる地球温暖化への影響
3	遠藤 優歩	睡眠
4	小川 正人	年代によって流行る音楽の変化
5	金子 颯太	Jリーグと各クラブが行う地域貢献活動は —Jリーグ発展と地域の双方にどのようなメリットがあるのか—
6	佐藤 大哉	現代イングランドフットボールが世界最高峰のリーグといわれている所以
7	七海 悠貴	人はどのようにして恋愛するのか
8	成田 藍蘭	現代女性の化粧への関心、化粧手法の特徴について
9	西井 廉	SDGs と現代 —わたしたちが解決すべき問題。17の国際目標と169の達成目標、232の指標—
10	山村智恵美	韓国ドラマ『愛の不時着』が人気な理由
11	吉谷 皓介	学歴社会をなくすための解決策
12	吉田 遥輝	衣服の手放し方と環境問題 —企業と消費者—

高野敬三ゼミ

1	遠藤 正隆	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか —試案から読み解く日本の英語教育の歴史—
2	渡部 龍生	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか —日本の英語教育についての私の意見—
3	福井谷優輔	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか —英語教育の方向性に対する私の意見—
4	本望 伊織	戦後、日本の英語教育はどのような変遷を経て、どのような方向に進むのか —日本の英語教育についての私の意見—

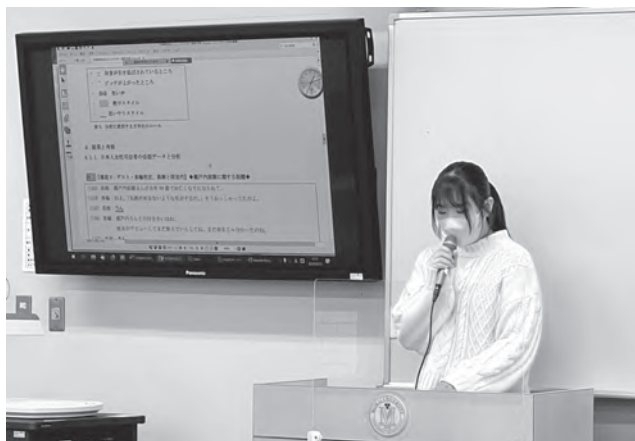
百瀬美帆ゼミ

1	池上 温哉	さいたま市から見る英語教育の課題と解決策
2	及川龍之介	学校が抱える問題 —公立義務教育学校教員の「働き方」についての現状と提案—
3	加藤 天真	英単語の効率的な学習方法
4	佐藤向日葵	高等学校における生徒が話す力を伸ばす効果的な指導法
5	佐保 翼	ICT利用のメリットとデメリットと今後の課題
6	関野 玲佳	英語の授業におけるペア・グループワークの有用性について
7	高橋 陽人	情意フィルターを取り除く効果的な取り組みや声掛けについて
8	横田 裕哉	英語の授業において話すことの抵抗感をなくす方法について

2022 年度英米語学科 卒業研究発表会

2023年2月13日に英米語学科主催の「2022年度卒業研究発表会」を開催し、英米語学科の教員と学生が参加しました。昨年度はオンラインのみで実施しましたが、今年度は対面とオンラインのハイブリッドで行いました。

はじめに、桑原未緒さん（川成美香ゼミ）が「女性司会者の会話スタイルの日米比較研究 —Tannen の「熱中スタイル」「思いやりスタイル」の視点から—」というタイトルで発表しました。日本とアメリカのトーク番組において、司会者がゲストと会話を進めていく方法がどのように異なるのかを明らかにしました。分析に際しては、日英語のトーク番組の会話を書き起こす作業を自ら行いました。



次に、岩楯維央利さん（ケイコ・ナカムラゼミ）が“*Invisible Racism: Rooted Racial Discrimination in Japan*”というタイトルで発表しました。自ら実施したアンケートで得られた結果をもとに、日本の大学生の間にある人種差別意識がどのような種類のものであるかを明らかにし、解決策も提示しました。



2つの発表ともよく準備されており、聴衆の関心を惹きつけ、発表終了後も多くの人が発表者を囲んでコメントや質問をしました。来年度以降に卒業研究に取り組む後輩たちにとっても、大変参考になる水準の高い発表でした。

海外英語研修 University of Hawaii (NICE Program)

この英語研修は2022年8月から9月に行われたものです。

Overcoming Language

Uran Kitamura (2nd year)

I had a valuable experience during this summer break. I went to the University of Hawaii at Manoa to study abroad for about three weeks.

The first day, August 28th was a free day. It has been a while since I have been overseas, so I was a little nervous. After our arrival, we went sightseeing to several famous spots in Hawaii. Since I arrived in Hawaii, I felt everything was fresh and stimulating: the people, culture, landscape and many other things. The next day was my first day of school. I heard English everywhere at school. At first, I was very nervous and felt lonely, but one student talked to me. She was very kind and friendly, so I tried to start a conversation with her. This experience gave me confidence. After school, my friends and I went out to explore almost every day. On the weekend, we went to hike a mountain and walked to another town a little far away from my dormitory. In one class, we learned about Hawaiian culture such as language, food, and hula dancing. On Monday, we did not have class, but my classmates and our teacher went to do some fun activities such as having a picnic and sightseeing. For sightseeing, we went to Honolulu Zoo. Being a student in Hawaii was not always easy because I was often faced with the language barrier. It was hard to get over it, but I did not give up. I kept studying English, memorizing new words, listening to the language, and speaking with English-speaking teachers. These efforts helped my English skills improve, and I became more confident speaking English. Since then, I have been able to use English actively. Every time I went to shops or restaurants, I tried to start a conversation with people. When I was struggling with what to say in English, people always tried to understand me, and taught me how to say the words in English.

In conclusion, I can definitely say that this experience was very valuable and special for me. I learned about Hawaiian culture and improved my English ability. Also, I felt like I could grow up as a person from this opportunity. I gained so much confidence and courage from talking with people in English, which is important for my future job. I want to say thank you to my teachers and Meikai University for giving me

this opportunity. I would like to keep learning and try my best in my future.



The Importance of Acting Spontaneously

2年 齊藤 凜

奨学海外研修としてハワイのオアフ島にあるハワイ大学マノア校で提供されている3週間の New Intensive Courses in English (NICE Program) というプログラムに参加しました。今回の経験から、積極的に行動することは自身の成長のためにも重要なことであると考え、今後の学生生活や大学卒業後も積極的に行動するのを忘れずにいくことが大切だと気づくことができました。

実際に受けた主な授業内容として、英語でのスピーキング能力の向上を図るため、クラスメイトとのディスカッションやハワイ大学の学生との交流を行いました。また、大学外に出てハワイの文化や歴史に触れることもできました。

授業では先生から投げかけられた質問に対して、答えだけを述べるのではなく、自分の意見を述べる必要とされていました。私は英語で自分の意見をその場で述べるのがこれまであまりなかったので、最初はできませんでした。し



かし、授業を重ねるにつれ、自分の意見を明確化し、述べることができるようになっていきました。クラスメイトや先生と話していくことで、自分の考えを深めることもできました。

3週間の授業の中で一番印象に残っている授業は、Kaka'ako という地区にフィールドワークに行ったことです。それまでは、授業内で英語やハワイ語の語学やハワイの文化について学んでいましたが、Kaka'ako で地域活性化活動として行われているウォールアート街を訪れることによって実際に様々な種類のアートにも触れることができました。それらのアートには、ハワイの歴史が描かれているものなどがありました。滞在中には、歴史についても学ぶことができました。

約1か月間もの間海外で勉強するという機会を得るということはとても貴重なことだと



考えていたので、私は1日1日を無駄にしないように、日本では経験することができないことを少しでも経験できるように、積極的に行動してきました。結果的に多くのことを学ぶことができました。今まで短期間で成長を感じる事がなかったのですが、今回は自分自身でも成長を感じています。

Knowing and Understanding Pearl Harbor

Mahiro Mizuide (2nd Year)

This summer, I visited Oahu, Hawaii and participated in a three-week language program called the NICE Program at the University of Hawaii at Manoa with 10 Meikai students. I had a great time with wonderful Hawaiian foods, nature, and many nice people!! During my three-week stay in Hawaii, I spent one day at Pearl Harbor to visit the National Memorial sites and Museum to learn about WW II history. As an optional class in the program, I had an opportunity to visit the Pearl Harbor Historic Sites in Joint Base Pearl Harbor-Hickam. Researching about the history of Hawaii before the program started, I had a desire to visit the U.S.S. Arizona Memorial. Finally, I could see the battleship Arizona sinking under the memorial and oil called “black tears” when





I looked carefully. Although there were several Japanese visitors at the historic site, I could see few Japanese people at the memorial. At that time, I thought that many more Japanese visitors should go there and use the opportunity to think about those who were killed by the Japanese attack on that tragic day. By actually visiting the memorial and

experiencing other places at Pearl Harbor, I learned the importance of knowing and understanding history made by humans. In addition, it is meaningful and important to pay our respects as Japanese. Therefore, if you have a chance to visit Hawaii, I would like you to pay a visit there. The experience in Hawaii taught me not only about English through the University of Hawaii program, but also the significance of on-site learning.

Growing Up in Hawaii

Futaba Uehara (3rd Year)

I fortunately was able to participate in the NICE program at the University of Hawaii from August 28th until September 18th. I had a great time with 10 other Meikai students, one professor and two students from Asahi University. There are three things that I learned in this program.

First of all, I learned that we should always be enthusiastic. In Hawaii, nobody cared about our mistakes when we spoke English. Just trying to speak was enough. In my classes, I always spoke English actively and communicated enthusiastically with my peers. This was true not only of class, but also educational activities. We ventured outside of the university and learned many things related to each site. Moreover, it helped us to go shopping, eat something and go somewhere after class. At first, I gave up asking questions, but I thought being active is more important than being afraid of making mistakes. If I had a question about a product, I asked the store clerk. Sometimes, my questions were not good but I did my best. When I go back to Japan, I will keep in mind to “always be enthusiastic.”

Second, I didn’t speak English as well as I expected. I found some native speakers’ speed of speaking English was so fast that I couldn’t understand them. I realized I should study English more; I should go to MLACC more. My speaking and listening

skills should be improved. That’s why I didn’t worry about making mistakes when I talked. I remembered “practice makes perfect” in my head. To improve my English skills, I almost always turned on the TV to listen to some news or watch films in my room. I felt my listening skills in English were getting better and better.

Third, language is strongly connected to culture. My research topic was “Hawaiian language revitalization.” I learned why the Hawaiian language was lost and also, I learned how native Hawaiians are revitalizing their mother tongue. I interviewed a student who is a native Hawaiian. The Hawaiian language shows Hawaiian culture in every word. In addition, I learned about it a little bit in my class. I like its sounds. It is easy to read like Japanese. In Hawaii, we need to know the names of places in the Hawaiian language.

In summary, my study abroad experience in Hawaii has led to many unforgettable memories. I love Hawaii’s atmosphere, its climate, foods, music and so on. I went to the Diamond Head, Waialeale Outlet, Ala Moana Shopping Center and Waikiki Beach. I enjoyed shopping with my friends. In addition, I became a big eater. I miss Hawaiian foods. Finally, I would like to thank my parents, teachers, and the people who are in charge of studying abroad. I would like to continue to work hard and be enthusiastic.





初めての海外で実感した成長と自信

3年 岡崎 耕大

2022年8月28日～9月18日の約3週間、私たちは「NICE」という日本人向け語学プログラムに参加しました。まず、具体的な研修内容として、このNICEプログラムでは、初日に参加者全員が一对一の面接を英語で行うクラス分けテストがあり、その出来を基に5クラスの内のどこかに割り当てられます。自分の英語力とほぼ同じレベルの学生が集まるため、クラスの仲間と協力して英語を学ぶことができました。このNICEプログラムは「英語でのオーラルコミュニケーションスキルの向上」が大きな軸となっており、授業中はすべて英語でのコミュニケーションが求められました。休憩中でも教室内では英語でのコミュニ

ケーションが求められ、日本語を話すと減点の対象になる場合があるので、スピーキング能力を養うにはとても良い環境でした。授業内容は、日常で役に立つ表現や英語の発音はもちろん、アメリカ合衆国の歴史、ハワイ州の歴史、アメリカの文化、ハワイの文化、ハワイの食、映画や音楽など多くのことを学ぶことができました。また、毎週月曜日には教室を出て、英語を学ぶアクティビティが用意されていました。私のクラスは水族館や美術館に行き、展示物の解説を基にワークシートの問題を解いていくという内容でした。さらに、週に2回、現地の学生と英語で話すInterchangeという時間がありました。この時間が個人的に一番スピーキング力を高める良い機会となりました。



今回の研修で成長したことは大きく二つあります。一つ目は、英語のスピーキング能力が向上したことです。明海大学では、3年生になると、2年生まで必修科目であった **Integrated English** がなくなり、英語を話す機会が今までよりも少なくなります。私は、今回の **NICE** プログラムに参加することによって、英語圏で英語を話し、理解しながら学習することができました。日本でも英語を話すことはできますが、どうしても日本語に頼ってしまうことが多く、「日本にいる以上、日本語が使える状況に甘えてしまう」ことが、英語学習する上での大きな障壁でした。しかし、研修中は授業、休憩中、授業外での生活、ショッピングなど英語を使う機会が日本にいる時と比較にならないくらい多いので、日常生活からも英語のスピーキング能力やリスニング能力を養うことができました。二つ目は、英語圏の人々と堂々と会話をする自信が持てたことです。今回の研修が私にとって初めての海外で、研修参加前までは英語圏の人と英語で会話することに正直緊張していました。しかし、現地では食事を買うたびに店員さんと英語でのやり取りがあり、回数を重ねるごとに堂々と話すことができるようになりました。以上の二つがこの研修で特に成長した部分であり、このような経験ができて本当に良かったと実感しています。今回の研修は英語力の向上だけではなく、異文化を知るという観点からも強くお勧めします！

Experiences in Hawaii: A Stepping Stone for My Dream

Haruka Kojima (3rd year)

My three weeks in Hawaii were a turning point in my life, because I could learn countless things there. I would like to share some of my treasured, irreplaceable and wonderful experiences.

In this study abroad, I participated in a program called **NICE**, which focuses on improving oral communication skills. This program included not only classes where the teacher taught English, conversational expressions, vocabulary, and grammar, but also authentic communication with local native English speakers. Through this program, I could expand my world-view and gain real world information through various personal experiences. For example,



I was introduced to culture differences, World Englishes, SDGs in Hawaii (Aloha + Challenge) and so on. I know that these treasures will help me with my dream to be an English teacher and by using them, I hope to encourage children who live in an uncertain future to pursue real-world experiences in the future.

In conclusion, I'm proud to be a Meikai University student, and I promise to contribute to our school and society as a student who embodies the philosophy of Meikai University.

Memories of This Summer

Fuka Hagiwara (3rd year)

This summer, I had an amazing experience in Hawaii. I studied to improve my communication skills in English and expand my horizons at the University of Hawaii at Manoa. Actually, I was able to speak English naturally compared with before my study abroad experience. And then, I found what kind of image people overseas have of Japan.



I would like to write about my classes and my free time. My class emphasized communication with my teacher and fellow classmates. I had a lot of chances to discuss about environmental problems and traditional

culture in Hawaii with my classmates. I found it is important to state my opinion and think in front of my classmates in a positive and active manner. By doing so, we can improve our communication ability in English. Secondly, I will talk about my free time in Hawaii. I visited a lot of places during my study abroad like Diamond Head, Pearl Harbor, Honolulu Zoo and Ala Moana Beach. My most memorable place is Diamond Head. It is a mountain in Oahu and a very popular spot known all over the world. I started to climb it at 6 a.m. The sunrise from the top of the mountain was so beautiful. During the



climb, I was able to converse with other foreign tourists in English. I was so excited.

Studying abroad has been my goal. I have put in a lot of effort to achieve that goal. This experience will be useful not only in my school life and job hunting, but also in my life after Meikai, when I become a full member of society.

変化に気づくきっかけの3週間

3年 福川 陽南

私は今回、ハワイ大学マノア校に約3週間の海外研修に参加しました。参加した理由は、英語に苦手意識を持ちながら学習をし続けた自分が英語を使用している国でどのくらい話せるのかを知りたかったからです。私は高校生のとき修学旅行でカナダに行きました。当時の私は必要最低限のことだけを英語で話し、自ら進んで英語を使用しようとはしませんでした。その結果、英語を使ってどこまで現地の人と意思疎通ができるかの限界を知らずに帰国することになりました。私は、現時点でどこまでできるのかを知るため、この海外研修に参加しました。

研修先の大学では、日ごとに設定されている授業のテーマについてクラスメイトと英語を使って意見交換をしたり、現地の学生1人に対して、クラスメイト3~4人と一緒に小グループを作成し、日ごろから英語を使用し、年齢が近い人とコミュニケーションをとる時間がありました。月曜日には、授業の一環で午前中に水族館や美術館といった、公共施設に行く日もありました。ただ展示されているものを見るだけではなく、英語が使用されている音声を聞いたり、説明のパネルを見たりしながら英語のワークシートを埋めていきました。

海外研修期間の3週間すべての時間がすべて学校によって決められているのではなく、自由行動時間が多くありました。この時間は、より現地の人や文化に触れ、日本との違いに気づかされる時間となりました。現地の人と会話をしたときに印象に残ったことは主に2つあります。1つ目は、現地で生活をしている方々は、自身が選択したことに対して理由を明確に述べることです。この違いに気が付いてから、何かの行動や意見を言うときに、自分が選択をした理由を考えることをしました。すると、自分の中で好む方向性や、避けるものの特長について深く理解することができ、自己理解を深めることができました。2つ目は、知らない人同士が会話をするとき、どちらか一方に話しかける明確な理由があるときは、国や場所にかかわらず同じような会話になるということです。このような感想を抱いたきっかけとなる出来事は、ほとんど自由時間中に起こりました。例えば、雨が降っている時に雨宿りができる近くのバス停を教えてくれた方であったことや、わからないことに関して現地の人にどのようにしたらよいのかを聞いたことです。実際に住んでいる人たちとの会話をしたり、生活している様子を見ることで、場所や話す言葉が違って、大

きな違いは無いのだということを知ることができました。



研修を通して、現時点の私は日々使っていない英語を通して他者と意思疎通を行うことができるものの、現地の人と深い討論や議論を行うのは苦手であるということを知ると同時に、高校生のときと比べて「必要最低限しか話さない」から「必要だと思うことは話す」に進化したと感じました。進化できた理由として、限界を知るという目標を持ちながら過ごしたこと、自分のやりたいようにやってみようという意志があることが挙げられると思います。目標と望みを持つことは、苦手なことに挑戦しようとするきっかけを引き出す要因になると感じました。このような機会を準備、支援していただき、ありがとうございました。

A Milestone in My Life

Shogo Kimizuka (4th year)

I participated in the Nice program at the University of Hawaii during my last summer vacation. In the program, we had classes focusing on speaking skills through the weekdays. Our teacher, Ms. Diana, was a very experienced teacher; therefore, I could learn about not only English but also teaching skills. Especially, her techniques for creating a cozy atmosphere in which students can make mistakes were fabulous. She always said, “L2 learners should make mistakes. By doing so, they can improve their English skills. No mistakes, no gain.” She also taught us a considerable amount of

information regarding the history of Hawaii, the special American holidays, and the language of Hawaii, to name a few.

When it comes to my classmates, they were so friendly that we even met them in Japan after coming back from Hawaii. Since there were countless chances to talk with classmates in speaking activities, I could make nice friends.

In terms of the facilities of the University of Hawaii, they are marvelous. Take the gym, for example. There is a diverse range of machines where you can train a small part of your muscles. Since I had not seen these sophisticated machines, I was so astonished and impressed that I would like to go there again after this program.

Through this experience, I realized that I need to improve my English skills more and more. Speaking skills are something I should work on particularly. However, at the same time, I became more confident as I could chat with people who speak English without any problem.

To sum up, this brilliant experience contributed to my confidence, as well as my knowledge with respect to teaching techniques and English, which resulted in my being able to speak English in front of others without hesitation. In addition, I had many authentic experiences that I will be able to share with my future students.



ハワイでの成長と気付き

4年 小室 美遥

私は4年生の夏休みに3週間、奨学海外研修としてハワイ大学のNICE programと呼ばれる語学プログラムに参加させていただきました。

授業はレベル別で行われ、私のクラスではハワイの文化や歴史、発音や環境問題等を学びました。15人程の少人数のクラスで、ディスカッションの時間が毎時間あることに加え、ハワイ大学の学生へのインタビューなどの授業もあり、積極性を養いながら英語を学ぶことができました。授業は午後4時間で、毎週月曜日にはクラス別で校外学習が開催され、私たちのクラスではアラモアナショッピングセンターやホノルルズーなどに行きました。休日は授業がなかったため、バスに乗って様々な所へ行きました。最初は現地の人と上手くコミュニケーションが取れませんでした。数日後には徐々に環境に慣れてきて、積極的に周りの人に話しかけて場所を聞いたり、お店での商品の注文がスムーズに行えたりするようになりました。



私がこの研修で特に印象に残っているのは **interchange** という授業です。**interchange** では、ハワイ大学の学生と少人数で1時間ディスカッションをすることができます。現地の学生が日常生活で使う英語を吸収し、それを実践することで会話表現の幅を広げることができ、回数を重ねるたびにより深い会話ができるようになりました。さらに、今回の研修で私の研究課題である環境問題について、この機会に現地の学生にインタビューを行いました。彼らの社会や環境に対する強い意志を感じ、自分が持っていない新たな考え方や多くの知識を得られる大変良い機会となりました。

今回の研修を通して私は、多くの学びを得ることができました。初めて海外で生活を送り、異文化に触れ、英語を日常的に使いながら現地でしか経験できない沢山の貴重な経験をさせていただきました。これらの経験は英語の能力を向上させることだけでなく、自分自身を成長させることができました。さらに、ハワイの人々が社会問題に対する関心と強い危機感を持っていることに感銘を受けました。環境問題についてのインタビューをした際には、回答した全ての学生が社会問題に対して独自の見解を持っており、深

い議論に発展する場面が多々ありました。それだけ社会や環境への関心が高く、その対策に既に多くの人々が取り組んでいることに気が付きました。

この研修で得た経験を活かし、身につけた教養をさらに発展させ知見を広げられるよう視野を広く持ち、様々な分野に興味関心を持って生活を送っていきたいと思います。そして、社会に出た際はこの研修で養った積極性や語学力を活かし、様々な方をサポートしていきたいと思います。3週間という限られた期間ではありましたが、周りの友人や先生などに助けていただきながら、日本では経験できないような貴重で忘れられない時間を過ごすことができました。ありがとうございました。

My Lovely Three Weeks

Rin Takahashi (4th year)

I did not expect to be able to go to the University of Hawaii at Manoa due to COVID-19 and I am so glad that my heart's desire came true. There, I could spend a lovely time and learn a lot of things for three weeks.

First, I had no confidence in my English before going to Hawaii, but I noticed that I could communicate with local people, use the bus, and buy something by myself. That is because I learned how to take the bus and order something at restaurants from my teachers; also, I could display the communication abilities and English skills I already had. This fact boosted my confidence and motivation to learn English.

Second, I met wonderful people in Hawaii and, as mentioned above, I could talk with them, but I had a lot of experiences in which I could not say what I wanted to say and understand what they said. Then, I found the meaning of learning English from this experience, and I wanted to speak fluent English in words of my own someday. I am sure that if you have a wonderful encounter abroad, you will want to learn more English.

Third, we went to Safeway, the supermarket near our dormitory, to buy various dishes, snacks, beverages, and water. On the first day, we did not know how to buy donuts there, but a local lady showed us how to buy them, and also, I could ask her what flavor she recommended. While it is important to visit sightseeing sites, I believe that by going to local supermarkets, you can learn more about local culture and experience the lifestyle of the local people.

Finally, it is necessary to be considerate of other people because we stayed at a dormitory, Lincoln Hall, where a lot of people stay, and we all shared a microwave oven, washing machines, dryers and more. Furthermore, I often interacted with other

university students and people from other countries, and had many opportunities to meet new people. I suppose that the best way to learn how to relate to others is living together.

In closing, the colorful things I learned and experienced on my travels helped me grow as a person. Besides, I appreciate that I could meet lovely people, experience lovely things, and spend a lovely time over my three weeks. I will never forget my lovely memories.

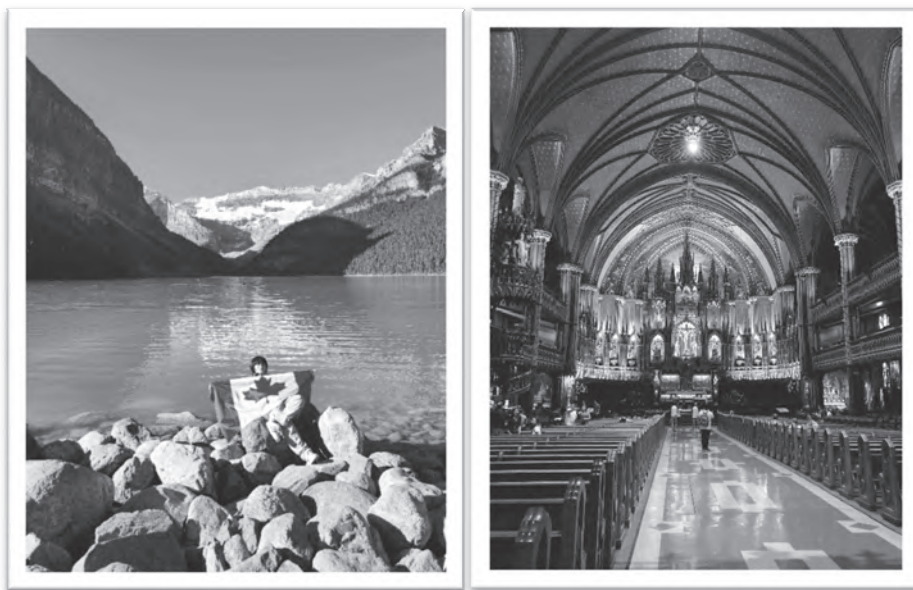


海外英語研修 アルバータ大学（カナダ）

アルバータ大学での 8 か月間の留学

3年 山西 啓太

私は、IVSP (International Visiting Student Program) と呼ばれるプログラムで、カナダのアルバータ大学に 4 月の下旬から 12 月の下旬まで 8 か月の長期留学をしました。前半の 4 か月間は「EAP コース」という英語集中講座で学び、後半の 4 か月間は、アルバータ大学の正規科目で興味あるものを選んで本キャンパスで受講しました。その他にも、EAP コースには、授業が終わった後も自由参加ができる Writing ワークショップや Speaking ワークショップなど、英語をまんべんなく学べるプログラムが用意されています。また、アルバータ大学が独自に企画している、ジャスパーやバンフといったカナダで有名な観光スポットを巡る旅行に参加することもできました。その旅行で私はたくさんの友達を作ることができ、現在でも交流が続いている友人もいます。アルバータ大学は様々な国々の学生が学びに来ているため、英語力だけではなく国際的な知見を深めることができると考えております。様々な文化や考えの垣根を越え、互いに尊重し合う素晴らしい景色がそこにはありました。



カナダの大学の新学期は、基本的に 9 月から始まります。ですから、その時期にクラブ活動や、様々な楽しいイベントが開催されるなど、春や夏と比べてキャンパスは大いに賑

わいます。私は明海大学では、何一つサークルやクラブ活動に参加してこなかったのに、アルバータ大学では大いにキャンパスライフを楽しもうと、たくさんのサークルに参加しました。中でも、アニメクラブと韓国語会話クラブではたくさんの友人と思い出を作ることができました。同じ趣味を持つ者同士で過ごす時間はかけがえのないものです。そのおかげで私の英語力も劇的に伸びたといっても過言ではありません。

正規科目は、「言語学入門」の授業を聴講しました。言語学を端的に説明すると、言語を分析し、理解を深めようとする学問で、我々が普段話している母語でさえも気づかないことに気づかせてくれる学問であると私は考えております。もちろん授業は英語で行われ、リスニング能力が乏しい私は学期の前半はついていくのがやっとでした。それでも、授業後に教授に質問をしに行ったりと、なんとか頑張りました。学期の後半では、耳も慣れてきて、教授が話していることや学生が言っていることはほぼ理解することができ、授業でも手を上げて発言するなど、毎週3回の授業が楽しみになりました。



留学で学んだことは英語だけではありません。上記のようにグローバルな思考を会得できたことはもちろんのこと、日本とカナダを比べることで、お互いの良いところ、悪いところを知ることができました。良いところは真似て、古い考えや悪いところは切り捨てる。新たな日本を創り上げていかなければならない我々若者には、そのような知見は欠かせないものであると考えております。

GSM フィールドワーク参加報告

GSM インターンシップ

経験という学び

3年 大貫 凌輔

JTP 株式会社にて 9 日間のインターンシップに参加させていただきました。私は以前から IT の技術を使って日々の生活で不自由を感じる人々に貢献したいと考えておりました。しかし同時に、IT の知識のほとんどない自分がこの業界で働くことはできないのではないかという不安もありました。経験を通して将来に役立つ知識を得ること、未経験の自分が活躍できる余地があるのかを確かめること、この 2 つの目的をもってインターンシップの参加を決意しました。

全体の流れとしては、初日に情報セキュリティに関する研修がありました。二日目以降は百貨店の EC サイトに導入する AI の比較、検討を行い、最終日に行った成果報告会の準備を進めるといった運びで業務を行いました。他にも企業様のはからいで多くの社員の方との座談会の機会を設けていただきました。私の配属された DX 部署では、日進月歩で新しい技術が開発されていく IT 業界の動向を直に感じる事が出来る場でした。実際に私が携わった業務の中では、やはり未経験であることが負い目になることが少なからずありました。わからないことや技術的な面についていけないこともありました。そんな環境下で私が得た学びは、諦めないことでした。インターンシップ初日に副社長が「IT 業界ではわからないことは『聞く、調べる』が鉄則だよ」と教えてくださいました。その教えで私の不安が少し軽くなりました。成長過程にある IT の業界では、わからないという悩みはどんな人にもあるため諦めずに学び続けること、そうすれば未経験の自分でも業界で活躍する余地は残されていると感じました。また業務を遂行していく中で、作業の進捗状況などをインターンシップに参加している他の学生と共有し、資料を共同作成するなど、自分が想像していた業務とは異なった経験もありました。実際に体験してみないと感じることでできないことが数多くあることを学びました。

座談会の中で、全員が共通して仰っていたことは、IT の業界では常に情報をキャッチアップして学び続ける意欲があることが求められるということでした。コツコツと努力し続けることが出来る人がこの業界に向いている人材であると理解することができました。今回のインターンシップを通して、インターンシップ参加以前に目的としていた、未経験の自分でも十分に努力次第では活躍の余地があると確認することができましたし、また実務の経験を通して業界での働く環境やタイムスケジュールなど、一般的な 1 day のインターン

シップではわかりえない学びがあったと感じています。このインターンシップは自分の進もうとする業界や職業に不安のある人こそ価値のあるものになると思いました。他にはない貴重な経験を、就活中だけでなく就職後にも活かしたいと思います。



究極のホスピタリティー

3年 田上 綾乃

私は数多くあるインターンシップ先の中で、舞浜にある5つ星ホテルのホテルオークラ東京ベイを選択しました。この研修先を選択した理由は、究極のホスピタリティーを学ぶためです。この究極のホスピタリティーを学ぶということは、ホテル業界のみならず他業界にも関係があります。ホスピタリティーとは、主にBtoCの企業で用いられることが多いですが、BtoBの企業でもクライアントに対する対応で用いることができます。このように、ホスピタリティー精神を5つ星ホテルの現場で学ぶことができれば、就職した際にどの業界企業にいても対応することが可能であると感じたため、ホテルオークラ東京ベイでインターンシップを行おうと決めました。

研修では、客室課・料飲課・フロント課の3課にて、究極のホスピタリティーを学びました。ホスピタリティー精神を学ぶため、まずはじめに座学で数日間の研修を経て、実際

にお客様対応をしました。インターンシップ生の私がどうすれば社員の方と同じような素敵な接客ができるのだろうとずっと考えていました。しかし、社員の方々それぞれの対応の仕方があり、正解はないのだと気付かされました。そして、自分なりにお客様のことを考え対応したところ、お褒めのお言葉を授かりました。研修の段階ではありましたが、将来社会に出る上で大事なことを考えるきっかけを頂いた瞬間であると感じました。

このインターンシップの経験を通して学んだことは、チームワークの大切さです。このことに関しては、特に料飲課で強く感じました。料飲課は、私が経験した3課のうちで最も忙しい部署でした。この部署の業務は、誰がどのエリアを担当するかが決められており、プラスαで案内をします。土日などの休日は激しく混み、多い時は朝食のみで1000人を超える日もありました。このような場合、丁寧なお客様対応はもちろんのこと、スピーディーな対応が求められます。しかし、1人がそれを意識したところで限界はあります。従業員の私たちが声をかけをしっかりと行い店内オペレーションの循環を早めることにより、1000人ものお客様を満足させる究極のホスピタリティーの提供を行えるのだと実感しました。

このインターンシップで、人の笑顔を直接見ることや感謝の言葉をいただくことは私のやりがいであると再認識することができました。最初は、5つ星ホテルで実務インターンをすることに不安を感じていましたが、インターンシップをしなければ体験することができない貴重な経験ができ、自身の中で人として成長する機会となりました。



GSM ボランティア

GSM ボランティア : JA いちかわ



My Social Contribution

Bat Erdene Batchuluun (4th year)

In September, I went to JA Ichikawa's workplace with a group of three senior students to give back to society. During the warmer days, we worked for JA Ichikawa Funabashi's fruit sorting facility for six days. It was a requirement for graduation. I knew it was an agricultural sector, therefore I expected volunteers to help with harvesting, sowing, planting, farm care, cultivation, picking, and sorting.

In my mother country, I had the opportunity to pick potatoes. I spent the entire day collecting potatoes and packing them into a 20-kilogram sack. We worked outside, so it was difficult, and there was a lot to do. In the instance of Mongolia's potato farms, we accomplished everything with our fingers and bodies. In the instance of the fruit sorting activities in JA Ichikawa, on the other hand, we did everything using cutting-edge technology. It was the first thing I discovered while volunteering: modern technology has the potential to minimize energy use while increasing labor efficiency.

I worked with the students, the workers of the JA Ichikawa, and even the locals. Some of the locals were older than us, but they worked harder, and we learned many things from their work experience in the field. I talked to them as friends also I had warm relationships with them. They were the crucial workers there, so I thought, regardless of age, each person in society was significant.

We oversaw sorting the Japanese pear crates. In the plant, approximately 50 workers were working on the assembly line to achieve the day's target. So, I assumed that several events occurred to sell a Japanese pear to a consumer. Many operations are carried out on farmland to prepare for the situation when pears are available in the market. Its procedure will be extensive and lengthy, needing a substantial quantity of time and workforce. Therefore, I realized that everything I consume required a tremendous lot of energy, so I must treat them with care and as thoughtfully as possible. I believe that the insights I gained through volunteering at JA Ichikawa will be useful in my future job and in my personal life.

GSM ボランティア：明海の丘夏まつり

一日へのつながり

3年 山崎 浩介

私は2022年の7月から、「明海の丘夏まつり」のボランティアに参加しました。活動は、いくつかの班に分かれ、それぞれが担当する縁日の具体的な内容を考え、当日の運営までを行いました。私が所属した班は、お客様にお面を販売し、そのお面に色を塗り、自分だけのお面を作ってもらおうという店舗を企画しました。当日までの準備はなかなか進展せず、想像以上に難しく、大変でした。材料費等の予算、当日の運営の仕方など、祭りの運営側でなければわからない詳細な点まで考え抜くことが求められていました。そのなかで特に「お客様に楽しんでもらう」ことを第一に考える必要がありました。しかし「明海の丘夏まつり実行委員会」の方々が優しく、丁寧に助けて下さり、最終的にお客様に楽しんで

らえる企画を考えることができました。またそのおかげで、実行委員会の方々との交流も深まり、より楽しく活動ができたと思います。話し合いのなかで、当日に向けての運営側の準備の難しさや、その準備が当日、お客様により楽しんでもらうことにつながると学びました。

8月に開催予定の祭りでしたが、コロナ禍の影響を受け、10月の開催となりました。その影響もあり、9月中の活動ができず、再開後すぐに当日を迎えました。自分たちの店舗の運営が上手くいくかとても不安でした。また、準備期間中に想定された人数を上回るお客様が訪れてくださいました。実際に店舗を運営していくなかで、待ち列を整理したり、お客様に個別に対応したりと臨機応変に行動を移さなければならぬ時間が続きました。嬉しいことに、私たちが販売したお面はすべて売り切ることができました。また、お客様の一人の子どもが、自分が作ったお面を私に見せてくれて、「ありがとう」と言ってくれました。その時に感じた「準備してきた時間への感謝」と「達成感」は忘れないと思います。自分たちの店舗運営が終わった後は、他の班が運営する店舗のサポートに移るなど、一日中活動していました。一日活動したなかで、お客様の多くの楽しそうな姿を見ることができたのは、本当にうれしかったです。

私にとってこの活動は初めての経験なので、ずっと不安でした。しかし、準備はとても楽しく、当日はあっという間に時間が過ぎ、気づいたら終わっていた感覚がありました。わずか一日の成功のために、とてつもない準備と多くの人の協力が必要であり、これらがあるからこそ、お客様の笑顔と自分たちの達成感につながると学びました。



Multilingual and Communication Center (MLACC) 活動報告

Instructors for the 2022-2023 Academic Year: Patrizia Hayashi, Tyson Rode, David Philips, Pierre Allec, Benjamin Maynard, Marisa Lucian, Robert Moriarty, Timothy Kleisinger, Steven Lim



The Multilingual and Communication Center continues to play a central role in English language education for English majors. In the first and second year of the English majors program, students take a variety of classes taught in English by instructors from the United States of America, Canada, Australia, and the United Kingdom. These courses, which are part of the Intensive Language Program (ILP) focus on the four skills of speaking, listening, reading, and writing. Moreover, students are encouraged to further develop their English skills by visiting MLACC's English Zone.

Integrated English I and II (First Years)



Integrated English I and II is a first-year communication course that meets twice a week on Tuesdays and Fridays. For many students, this was their first chance to speak extensively and mainly in English. During the first year of the Integrated English program students were taught a variety of discussion skills through interesting and engaging content. By the end of the year, students were able to give their opinions with clear reasons, agree and disagree with one another, and actively show they were listening to each other. In the first term, students discussed food waste, marketing, and extreme weather. In the second term, students learned about sustainable housing, art and music, and communication. The last unit on communication focused on sign language, which was a challenging topic, yet instructors were impressed with how well students at all levels made effort to discuss the advantages and disadvantages of various policies to help deaf students attend schools. Finally, by the end of the second term of the program, students should be at the Common European Framework (CEFR) A2+ level or higher as demonstrated by their performance on the speaking test. In fact, most students showed themselves to be above that level in their ability to use English discussion skills language!



First-year students, you made great progress! Let's keep that up!

Integrated English III and IV (Second Years)



Integrated English III and IV is a second-year communication course that meets twice a week on Mondays and Wednesdays. At the start of the second year Integrated English class, students are expected to have command of all the discussion skills they learned in the first year. At the same time,

they are introduced to more advanced discussion skills as well as some presentation skills. Students are challenged through a range of topics from healthy eating, historical sites, and entrepreneurship in the first term to shopping psychology, migration, and environmental issues in the second term. Critical thinking is stressed in the second year, and students are required to make logical connections as they discuss these topics by giving examples, expert opinions, and statistics to support their reasons. The highlight of the second year is the Capstone Project, which takes place at the end of the second term. Students select from one of three projects related to store design and product placement, support services for foreigners in Japan, and dealing with issues related to overtourism at national parks. Students researched the topics, finding evidence to support their positions, presented their findings to the class, and then engaged in a full discussion of the topic with their group in the speaking test. Over the winter break, students reflected on their performance. By the end of Integrated English IV in the second term, students are expected to achieve a CEFR B1 rating. Based on instructor feedback from their speaking test, second year students overwhelmingly hit that target or higher!

Second-year students, you should be proud of how far you have come and how much you have achieved! Make a goal to continue developing your English communication skills in your third and fourth years!

Listening I-a/b and Listening II-a/b

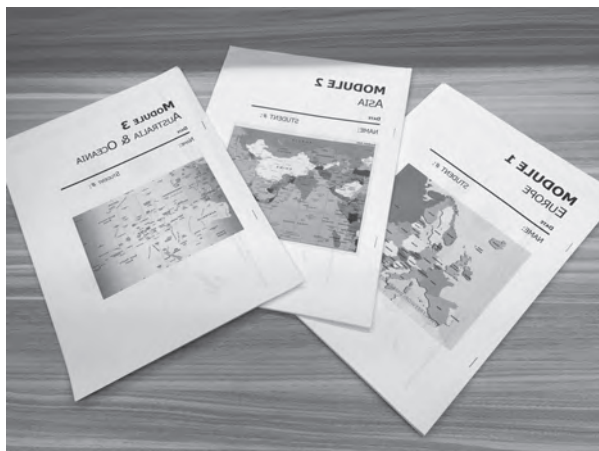


In the first and second year of the ILP, students have a dedicated class for Listening that meets once a week. In both the first and second year of the program, students use an academic Listening-Speaking course book. To ensure that students learn about a wide variety of topics in their studies, topics are chosen that do not repeat those studied in the Integrated English program. Thus, in the first year, students focus on places, festivals and celebrations, the Internet and technology, sports and competition, people, and the universe. In the second year, students are exposed to more advanced listening topics that include animals, the environment, transportation, health and fitness, discovery and invention, and fashion. At the end of each unit, students completed a task that often involved listening to one or more videos, followed by an activity that focused on pair or group listening and notetaking skills. In addition to the academic listening found in the course book, students were introduced to authentic materials through YouTube video clips. Moreover, students were asked to find authentic materials of their own to share with their classmates in a Listening Log. Students presented their Log to a small group and created a three-question quiz based on their Log to ask their group members.

Listening is a difficult skill to measure, so students often consider it their weakest skill. But listening scores are going up! Everyone who attends class regularly and does the work is truly making progress! Continue listening to English outside of class by listening to YouTube clips, apps, movies, and so on!

Reading I-a/b, Reading II-a/b, and Reading III-a/b

In the first two years of the ILP, English majors take three reading classes. Reading I and Reading III are in the first and second year of the program, respectively. These courses use course books that focus on real world issues. Students focus on intensive reading that requires students to understand details and vocabulary. These classes are



generally taught by professors in the English Department. Here, however, we will concentrate on Reading II, the only course that is solely taught by the foreign teachers.

In 2022, Reading II went through a complete revision. This year's second-year students are the first to experience the new version of this program, which takes students on a world tour through a series of modules. Each module covers one continent of the globe: Module 1-Europe, Module 2-Asia, Module 3-Australia and Oceania, Module 4-Africa, Module 5-South America and Central America, and Module 8-North America and the Caribbean. Students explored the history, land, people, and culture of one country in the region and then researched another country on their own. Later, they presented the information they discovered to their classmates. Students studied a wide range of vocabulary and discussed social issues. Videos were used to supplement the materials so that students learned about Nigerian fashion, the *gauchos* of Uruguay, and how one teen Indian rapper used her platform to sing about poverty and racism in India. This was a challenging course with a significant workload, but students participated actively, did the work, and expanded their knowledge of the world around them!

Reading is an incredibly important skill. Reading develops vocabulary, grammar, and content knowledge. Reading aloud helps with pronunciation, intonation and vocabulary learning. Take time out of your busy schedule and try to read something each day! It will take your English to the next level!



Writing I-a/b and Writing II-a/b

Through writing, students can learn how to logically and comprehensively organize their ideas in a second language. Writing strengthens all of the other language skills because students are actively expressing what they have learned in other courses when they write.

In the first and second year of the ILP respectively, students take Writing I-a/b and Writing II-a/b. These courses take students from the basics of paragraph writing to writing detailed essays requiring research on various global and local subjects. In Writing I-a/b, students learn about the writing process of prewriting, writing, and revising. They also learn the fundamentals of paragraph structure and organization and other elements of writing which will be beneficial for the rest of their university studies and future careers. The 1st-year students made exceptional progress this year and are ready to take on the challenges of Writing II-a/b.

In Writing II-a/b, the focus is on expanding students' writing into longer essays. Students engage in researching and writing about various challenging topics. For example, they researched various societal problems both in Japan and abroad and tried to propose solutions with references to support their opinions. Students wrote excellent problem-solution essays on topics ranging from environmental problems to issues of gender and racial equality. Another example of the students' writing skills development was evident in the final essay of the year, the opinion essay. Students had to write well-researched and detailed essays about topics concerning society and politics, school

and education, human relationships, etc. The students were very successful in all of their writing endeavors this year!!! Well done, students!!!

English Zone



There is no better place to improve English communication skills than at English Zone! Open Monday through Friday in fourth and fifth periods, English Zone remains the hub of English activity in MLACC. Created as a self-access learning center, the purpose of English Zone is to provide students with a place where they can develop their English skills at their own pace and in their own way. A variety of resources are available for students. Aside from the fact that a foreign teacher staffs the room each period, students can participate in monthly challenges, read books, borrow videos, play games, enjoy English music, and prepare for tests like EIKEN, IELTS, TOEIC, or even TOEFL. There are also special events such as the International Fair, which was successfully held in the first term. Mostly, students are encouraged to visit the English Zone to communicate with other classmates using purposely developed materials for discussion. Students who regularly come to the English Zone make incredible strides in their speaking and listening skills. Moreover, their confidence grows.

While Integrated English students are required to attend the English Zone at least three times a term, it is the goal of MLACC instructors to encourage all English majors to make English Zone an important part of your four-year university study plan so that you can all become strong speakers of English by the time you graduate! Come by English Zone! We're waiting for you!

Four Skills for Teaching (Third Years)



Four Skills for Teaching is a course for 3rd-year students in the teacher-training program that focuses on having students practice the 21st-century skills (e.g., critical thinking, creative thinking, collaboration, and deep learning) that they will need to teach their students when they become teachers after graduation. The purpose of the course is to bring educational theory into practice by giving students the opportunity to apply the theoretical concepts learned in their other courses in an all-English environment. The teacher-training students participated enthusiastically in many tasks and projects which included things like teaching a science lesson in English, creating a video advertisement for a future job, and participating in two debates, one of which was based on the use of multimedia technologies.

The course instructors are very proud of the students' efforts this year and are most certain that they will be successful in their futures! Go for your dreams, students!!!

卒業生からの手紙

なにかひとつ、夢中になれるものを

近藤 翔太

はじめに

2014年3月に英米語学科を卒業しました。今年で32歳になりますが、この32年間、お世話になった小林裕子先生や学生時代の友人含めて、人との出会いに本当に恵まれているなど、これまでの環境に感謝しております。大学卒業後、新卒で入社した塾業界で、東京都と千葉県の地域責任者として日々業務にあたっております。入社して10年目という時の流れは恐ろしく、学食や丸善、教室について昨日まで足を運んでいたのではないかと錯覚してしまいます。Time flies like an arrow. ですね♪

この仕事を選んだきっかけ

中学1年時の途中までは英語を筆頭に勉強自体が嫌いで成績は5段階中ほとんど2でした。中学1年時の学年末のテストを機に英語の点数が92点まで上がり、それ以降点数を取る楽しさや英語そのものの楽しさを知りました。点数が上がるきっかけになったのは、もの覚えが悪くとも見限らないで、とことん教えてくれた当時通っていた塾の塾長の指導でした。同じように勉強を苦手としている子どもたちに勉強の楽しさを伝えたいという思いから中学3年時に先生になることを決意しました。その後明海大学に入学し、いったんは旅行業界に進むことも考えましたが、小林先生のゼミや異文化コミュニケーション学、その他多くの先生方の講義を通して、人前でレクチャーがしたい、自分自身のやり方で子どもたちに伝えていきたいという思いが勝り今に至ります。

入社してから

当社では5月、9月、1月時点での生徒在籍数を目標に1年間取り組んでおります。入社3年目と入社5年目の9月で最優秀教室賞を勝ち取りました。入社6年目では地区マネジャーという役職に昇進し、同年9月に最優秀地区マネジャーに選出されました。入社8年目ではブロック長という役職に昇進し、入社10年目になる現在でも数名の地区マネジャーと13教室を統括している日々を送っております。

成功した要因 5つ

大前提～ぶれない軸を持つこと、こだわりを持つこと～

①：対面で話すからこそ意味を成すコミュニケーション

近代化が進みリモートワークや、ZOOM、ラインなどで簡単に業務が進む時代になりましたが、学習塾では生徒に教えるのは先生、先生の育成をするのも先生です。人と人とのコミュニケーションで成り立っている職業であるため、ZOOM やラインだけでは、人となりや、雰囲気、癖、礼儀作法を伝えることはできません。人になにかを伝えるときはどんなに努力しても 6 割程度しか伝えることができないと、異文化コミュニケーションの講義で学んだことを記憶しております。学生時代の塾講師のアルバイトを含めて 13 年間子どもと関わってきていますが、目を始めとして表情を見れば、どういう心情なのかが読めるようになりました。保護者や先生たちに対しても同じです。いろいろと便利な昨今ですが、対面での会話も楽しみましょう♪

②：躊躇しないこと、良くないことであると気づいたら、その場で注意、指導すること。

③：良いことや、悪いこと、楽しいことは『話したい』、『発信したい』、『共有したい』と、考えてしまうこと。

④：相手を気にすること、相手が活躍できるように裏方にまわることを意識すること。

⑤：最後の最後まで諦めないこと、一生懸命に取り組むこと。

学生時代にやってよかったこと 7つ

① 塾講師のアルバイト(中学時代通っていた塾長のもとで働いておりました。)

⇒勉強を教えることを通じてプレゼン力や表現力が磨かれました。

② サービス業のアルバイト(居酒屋・結婚式の配膳)

⇒この経験が仕事に活かされています。学校や塾の先生のように表情が硬くなりがちな職業を考えている学生は必見です。

③ 工場での派遣アルバイト

⇒肉体労働なので 1 円を稼ぐ重みや、商品が身の周りにあるありがたみを知ることができました。

④ インターンシップ(私は旅行会社で一ヶ月間給与つきのものに参加させてもらいました。)

⇒現場で活躍される方々の仕事を垣間見ることが出来、貴重な経験を得られました。

⑤ 何事も記録すること。意識を持つこと。(私は手帳に読んだ本、観賞した映画も記録しました。)

⇒今ではこの習慣で前年度の行動と比較することに役立っていることや、記録することにアンテナを張ることから、意識的に子どものちょっとした表情や変化の違いを読み取ろう

とするようになるので、無意識でそれが可能になりました。

⑥ 周囲に耳を傾けること、観察すること。

⇒喫茶店や電車、アミューズメントパークなどで、学べるものがたくさんあります。会社勤めの上司部下の会話や、営業マンと客の会話、お店の人の振る舞いなどと言葉遣いや所作が学べます。

⑦ ラジオ視聴とビジネス書籍の読書

⇒NHKのEnglish Newsのポッドキャストを視聴しておりました。日本語と英語で交互に話されるのでリスニング力向上のために行っていましたが、意外にも他の点で恩恵を受けました。ラジオは声のみで伝えるメディアであるため話し方や、今まで知らなかった言葉との出会いがあり語彙力が向上しました。また、ビジネス書籍の読書をすることによって、働くことのイメージを湧かせることに役立ちました。

日ごろから意識していること

学習塾は、他業種と比較すると閉鎖的な職業であるため、情報をキャッチすることに意識をおいております。

たとえば、学生時代での習慣でもあった周囲に耳を傾けることは今でも継続中です。世間では、いったいなにが流行しているのかをキャッチしております。また、最近ではinterfmの『Otona no Radio Alexandria』という番組を聴いております。プレミアム世代に向けた番組なのですが、川の上流の土壌が改善されれば、自然環境が良くなるという話や、企業の社長さんの話が聞けるので、流行や知識を身につけることができます。休日も周囲にアンテナを張っていることから、お店の商品や、サービス、レイアウトを見た際に当塾で取り入れられそうなものがないかを考えてしまいます。取り入れて、その仕組みが上手くいった時は、達成感を感じます。

さいごに

10年前と比較して将来にやりたいことが浮かばないという中高生が増えてきたように思えます。それは情報が簡単に手に入る時代になったからこそ起きているのではないかと、憶測しております。実際に自分の足で稼いで、本物を見て、手間をかけることに意味があると私は考えます。『～なにかひとつ、夢中になれるものを～』というタイトルは、そんな中高生やなんとなく大学に入学した、という学生におくりたいと思います。

在学中の学びや経験でグローバルに活躍ができるように日々精進、楽しんでください。私も成長します。

編集後記

今年も『英米ジャーナル』をお届けする季節となりました。ご寄稿下さった皆様、ありがとうございました。

2022 年度もマスク着用の日々が続きましたが、大学では対面授業に戻り、徐々に日常を取り戻そうとしています。ワールドカップでは、日本代表が新たな一幕を歴史に刻むなどの出来事もありました。英米語学科のハイライトといえば、ハワイ大学奨学海外研修です。コロナ禍を経て、慎重を期しての実施でしたが、無事に全員がプログラムを修了して帰国を果たしました。もちろん、例年通り、3, 4 年ゼミ、GSM の学外における学び、MLACC の活動報告から、伝統を引き継いで歩み続ける英米語学科を実感頂ければ幸いです。

『英米ジャーナル』を読んだ後輩の皆さん！先輩達の笑顔、輝いているでしょう。ぜひ先輩達に続いて、充実した国内外における体験談をお寄せ下さい。編集委員一同、お待ちしております。

最後に、卒業生の皆さん、おめでとうございます。依然として不安定な国際情勢も懸念されますが、日々の生活でできることを大切に、これからも歩み続けていきましょうね。何かあったら、いつでもキャンパスへ遊びに来て下さい。

2022 年度『英米ジャーナル』編集委員
林 智昭

英米ジャーナル 第 19 号

2023 年 3 月発行

明海大学 外国語学部 英米語学科

〒279-8550 千葉県浦安市明海 1 丁目

明海大学浦安キャンパス

TEL 047-355-5111 (代表)

印刷：株式会社グラフィカ・ウエマツ

〒161-0033 新宿区下落合 4-21-19



Rainbow in Hawaii